

847  
1

秘



旗丁番三二一四

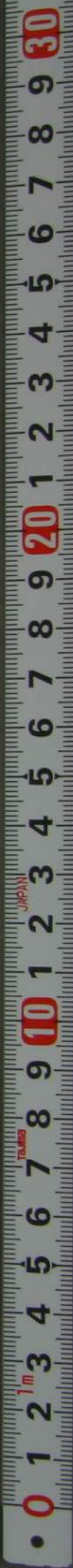
馬尼刺視察報告

明治三十一年九月三日

西御海軍大臣殿

野村常備艦隊司令官

七月廿九日ヨリ海上不穩ノ為メ台湾西岸ヨリ避難汽  
船數隻媽宮港ニ来リ晴雨計次第ニ降下シ八月四日  
ニ最低ニ九五トナリ内地測候所ニテハ四日午前八時  
ニ九四九ニシテ實ニ一昨年始測以來ノ最低度ナルモ低  
気壓ハ台湾東岸辺ニアリテ北進スルカ如ク香港航  
行ニハ危險無カルベシト断定シ八月四日午後四時十五  
分媽宮港出帆港外ニ於テ針路ヲ西ノ南トス



臺灣海峡ヲ横過スル間船六只僅カニ北方ハ三哩偏セ  
シ  
晴雨計器錫<sup>三</sup><sup>五</sup><sup>六</sup>寒暖計<sup>二</sup>風向ハ南ヨリ東ノ向ニシ  
テ其力一乃至三天候ハ半晴ニシテ靜穩唯時々驟雨アル  
ノミ

月六日 午前十時香港ニ入港軍艦泊地第四浮標ニ繫留  
ス

軍艦高砂ハ五日夕刻香港ニ入港セシカ三日ヲ南西ノ  
暴風ニ逢ヒ入港後漸ク<sup>ク</sup>ターポーリン<sup>ク</sup>ヲ降クヲ得タリト云フ  
也ルニ本船ハ殆ント其餘波ニモ感セズ海面靜穩ナリキ  
入港後英兵五旗ニ對シ制規ノ礼砲ヲ施リシ者砲  
ヲ受ク又英兵海鎮司令官及高砂艦長ヨリ礼砲  
ヲ受ケ直ニ吾砲ス午後上野帝兵領<sup>リ</sup>英國海

鎮司令官<sup>コ</sup>ム<sup>モ</sup>ドル<sup>ル</sup>ホルランド及在泊各艦長ノ訪問ヲ  
受ケ規定ノ如ク回訪ヤリ在泊軍艦ハ「<sup>ハ</sup>ア<sup>フ</sup>ラ<sup>ー</sup>」<sup>「</sup>ア<sup>ロ</sup>バ<sup>ー</sup>」<sup>」</sup>  
ラクリケ<sup>ル</sup>（<sup>修</sup>理中<sup>ニ</sup>）ニシテ其他ハ「<sup>テ</sup>」<sup>」</sup>等ノ常繫艦船ナリ  
トス

月七日午前清艦海籌<sup>（</sup>Haik Shew<sup>）</sup>艦尾ニ獨<sup>シ</sup>軍艦  
艦首旗ヲ掲ケ入港ス浪艦<sup>ヲ</sup>七号報告ニアル清艦海  
筹ノ姉妹艦ニシテ日<sup>ク</sup>獨<sup>シ</sup>ヨリ回航<sup>ノ</sup>途ニアルモヤリ

月八日午前香港大守代<sup>任</sup>グラタ<sup>ク</sup>少將ヲ司令部ニ訪問  
ス午後其苦<sup>ヲ</sup>受ク退艦ノ節十七発ノ礼砲ヲ發  
セリ午後二時方碇<sup>ヲ</sup>不<sup>レ</sup>向<sup>ケ</sup>出港ス英艦<sup>ハ</sup>「<sup>ア</sup>」<sup>」</sup>今<sup>ハ</sup>  
割地境界委員ヲ搭乘シ<sup>テ</sup>「<sup>マ</sup>」<sup>」</sup>灣ニ向ケ出港セリ  
帝兵領子<sup>ノ</sup>照會ヲ以テ馬尼刺駐在伊兵領子<sup>ハ</sup>「<sup>マ</sup>」<sup>」</sup>  
コレハ馬尼刺便乗ヲ許可ス

同九日午前九時香港出帆ス同地至泊中晴雨計最優ニ  
ニシテ天候良好ナリト金氏九日既ラ引ヨリ入港セル英  
船ニ就キ質スニ海面ハ稍ヤ波浪大ナルモ風力微弱ナリ  
シトノ報ヲ以且ツ氣象報告ニ依リ低氣壓ハ台湾北  
部ヲ通りテ福翁ノ方向ニ進ムヲ知リ引航リニ差  
支ナレト決セシナリ

晴雨計最優ニシテ寒暖計ハ六風向南西ヨリ南ニ至リ其  
力四乃至ニ曇天ニシテ海上靜穏ナリ  
正午東至百十四度廿八分北緯二十一度四分ニ於テ南東ニ  
南ニ変針

同十日午前二時推測北緯百十五度三十分ニ於テ南東ニ南ニ  
変針ス  
正午實測ヨリ東至百十六度二十九分北緯十九度三  
分

十四分アリテ推測ヨリモ北東ニ北ハ八哩偏セルヲ知リ南東  
ニ變針  
晴雨計最優ニシテ寒暖計ハ五  
風向南乃至東其力二乃至三半晴ニシテ時々驟雨アリ靜  
穩

同十日正午船位北緯百十七度四分十九分實測ニ昨日正午ヨリ北  
々東八十四哩偏流セルヲ知リ南々東ニ變針ス  
晴雨計最優ニシテ寒暖計ハ五  
風向南々西其力三乃至五半晴ニシテ驟雨アリ波濤大ナリ  
ス

同十一日午前五時半呂宋島中部ノ陸ヲ望見ス六時半  
カボタ島ヲ南々東ニ東十四哩ニ見テ沿岸航ヲス  
昨日正午ヨリ午前五時迄ニ北々東八十四哩偏流ナリ

午後二時廿分コレキドル水道ヲ入り五時十四分カビテニ返錨  
ス錨位サンガレ角ノ北東ニ東一哩半水深六尋ノ  
風向南西乃至南東ニテ其力三乃至一幸晴ニテ驟雨  
アリ波濤大ナラス

入港ノ際米船「マツクロック」ヨリ士友來訪米船係司令  
友デユウエー少将ヨリノ挨拶ヲ述ベ且碇泊位置ハ馬  
尼刺市ノ前面ヲ避ケラシキ旨通告セリ米船係  
司令友及英船「イムモタリヤ」トノ礼砲ヲ規ルルカ  
シ香煙ヲ携帶ノ書信ヲ英米各船ニ交付授錨  
後米船係ヨリ訪問シ来リ明十三日午おれ付馬尼刺  
市砲撃決リノ趣希ニ「ユウエー」司令友ニハ為メ訪問  
遅引スベキ旨ヲ告ゲ去ルル以時已ニ日没ス直リト米船  
訪問ノ期遷延スルヲ慮リ且ツ砲撃亦米船司令友

ニ會見ノ要ヲ感シ直ニ米船係ヲ訪問ス曰司令友曰ク西子  
艦督遂ニ余カ降伏ノ勧告ヲ入レサルヲ以テ今ニ明十三日  
おれ付砲撃ヲ宣リスト余氏恐クハ數発ノ砲彈ニテ終  
結ヲ告グルナシカト亦友モ又多我ノ人命ヲ害ハスニ慮  
ニ終局セシメテ希望スル旨答ヘ友分ルル以日各船艦  
在在ノ如シ

カビテ 米船「ラリムロヤ」(旗船)「バルケモワ」「ラレ」「ホストン」「モン  
レ」「マツクロック」「カララ

英船「イムモタリヤ」「イフセニア」「ラワトラ」「ビグミ」  
帝心 松島、浪連

其他米國運送船及日英兩船ニ在スル艦難船

タンボニ近キ陸岸  
マニラク河口 米船「マニラ」  
マニラク河口 米船「マニラ」

マラゴン岩獨航「カイザリ」(強航)「カイザリ」(強航)「カイザリ」(強航)「カイザリ」(強航)「カイザリ」(強航)

ルム

佛航「バヤリ」(強航)「パスカル」

其他佛獨兩名「序スル」避難航

マリンス唐 獨航「ユルモ」及「獨避難航」

同十三日 早航「マラゴン」沖碇泊、獨佛兩航「香港」ヨリ「檳榔」  
帶ノ通信ヲ交付ス午八時「英航」「イムモタリ」船長  
來訪「各」九付「三十八」分「末」航隊「マラ」保皇砲撃開始  
ス(我既「預」下「番」第三「号」)午「后」帝「心」領「子」及「級」負「系」ニ「本」邦「人」  
避難者ヲ「浪」連「ヲ」松島ニ「移」シ「保」護「航」「エ」ス「カ」ニ「ヤ」ル「此」  
督ノ「侍」下「士」卒「ヲ」松島ヨリ「交」代「セ」シム「夕」刻「末」航「マ」ル「ト」  
カ「ビ」テ「入」港「ニ」自「士」及「ヲ」連「リ」我「況」ヲ「多」カ「ン」ム「又」明「を」浪「連」  
澎湖島ニ「向」ケ「テ」出「航」ニ「自」カ「ビ」テ「在」泊「ノ」英「米」航「ニ」到「リ」各

先任指揮友ニ通知セシ「ヲ」依「托」ス「以」致「獨」航「「カイザリ」  
グスタ」香港ニ「向」ケ「テ」出「港」セ「リ」(此「獨」航「ニ」自「西」國「艦」督「寓」族  
ト「共」ニ「搭」乗「香」港「ニ」去「レ」リ「ト」云「フ」)

同十四日 午「方」浪「連」出「港」**松島**(洋「江」ガ「ケ」)ニ「碇」障「ヲ」生「シ」歸  
港「校」船「ヲ」獨「航」「ユル」モ「エ」レ「保」護「航」四「隻」ヲ「率」ヒ「マ」リ「ベル」ス  
「湾」ヨリ「マ」ラ「ゴン」沖「ニ」歸「來」ス午「後」英「航」「ロ」グ「ミ」  
ニ「米」航「ガ」フ「ヒ」ロ「ハ」香港ニ「出」港「何」レ「モ」通「知」ラ「セ」リ  
本日西軍降服ノ「条」約「締」結「セ」リ「ト」云「フ」(降「伏」条件ハ「別」ニ「報」  
告「済」)

正午以來國士友來航「未」必「輕」侮「ハ」本日「ヲ」以「テ」馬「尼」刺「灣」  
ノ「封」鎖「ヲ」解「キ」タル「旨」通「告」セ「リ」  
比列賓群島人民ニ「對」スル「リ」  
別ニ「報」告「ス」

日十五 午前八時浪連澎湖島に向て出港松島モ同時揚  
留保護船「エスカイヤ」ヲ曳キ錨地「コリ」ニ至シ午後十時  
ハッパ河口燈台ノ南西二哩ニ碇錨ス美航「ラット」  
ノ外局外國艦艇モ皆錨場ヲマシラノ旧位ニ碇セリ  
午後半時艦隊司令友及「イフセ」艦長カ、訪問ヲ受  
ク独佛兩艦艇ニ對シテ制規ノ礼砲訪問ヲモシ又英  
艦ヲ回訪ス午後後獨乙司令モ友來訪ス  
半時司令友ノ話話中陸軍ニ於ケル死傷者ハ死者十  
一名負傷者三十五名ニテ海軍ニ於テハ一ノ負傷者  
ナク連尤勝利ヲホク云々ノ話アリ又以後互徒トノ  
協和上紛擾ヲ起サルヤトノ問ニ對シテ自白モ多ク因  
難ハ生スルヤト惣念シ居ル旨答ヘリ  
本艦ニ避難ノ帝必領ヲ并ニ報負カ邦人及便乗伊

必領ヲ本日ヲ以テ退艦上陸ス  
「エスカイヤ」ニ避難セシ西不婦女童幼カモ畏テ避難ニ要  
ヲ認メサルニ舟上陸セシメハ張將校下士卒ヲ引揚ゲ午  
前十時十分英艦「イムモタリヤ」率子々旗ヲ掲ゲせ一砲  
ノ礼砲ヲ發シ米艦艦艇應答セリ  
日十六 午後半時「モニトル」艦「モナウド」艦  
入港ス聞クカ如クハ日艦ハ七月十三日ホノル港ヲ發シガ  
川島ニ運送船ヨリ載炭ヲモシ航海中幸穂丸中石炭  
ノ消費ヲ減スル為メ十四時「ホーセル」ヲ以テ成カレリト  
又ガムニ於テ独艦モ一隻ニ心奪セリト云フ  
本夜ヨリハッパ河口燈台ニ碇ス  
日十七 帝必領ヲ及米不陸軍指揮友「リ」ヲ訪  
ヒマラテ堡壘ヲ實視ス實視報告別紙通佛國艦

係司令及及独肥々長来汚ス来必旗既ヲ士友ヲ送  
来西面侵平和条約調印成リ先旨通知セリ其全文  
ハ旗下普刊三二号ニ報告セリ  
茲日ハ並流私銃ニ築港防波堤内ニ入ル湾口コレド  
燈台ニ点燈セリ見ル

(一) メリット將軍ノ諭告(八月九日) 詠文  
今ヤ我軍ハ以非常力付ニ當リ各其分ヲ守リ任務ヲ  
全セテラ期望ニ係セテ我將校下士卒ニ告示セトス  
諸氏ノ怒ヲ離レ廣荒タル大洋ヲ横リ陸ク西方ニアル  
異域ニ聚ルモノニ善ク劫掠抑壓セシカ爲メハ我ニテ  
戰爭ニ於テ宣言セシカ如ク仁慈我依テ自的トスル強大  
尤自由政府ノ代働者ナリ否ナ西ニ失敗ノ下ニ壓制  
セラレタル臣民ノ代働者ナリサバ余ガ告示ノ意タル

士人ヲ遇スル事尊嚴尤不位ヲ保テテ後導成功ニ俟  
者ノ如ク希望ト實リトニ於テ是高ナル文以臣ノ代表者  
トシテ各自重セテラ期スルニ外ナランナリ  
又軍心ノ軍人軍属タルモノハ掠奪暴行及強淫ノ所  
爲ハ直モ之ヲ許サズ若シ犯スモノアラバ被害者ニ対ス罪  
人ナルニシテ其軍國々旗ヲ汚漬スル罪人ニシテ軍中重  
罪ノ余項ニテテ處断ス可シ

(二) メリット將軍ノ諭告(八月十七日) 詠文  
余ハ將來必我勝史上記臆セラルベキ日即チ八月十三日  
(旺)我軍カ馬尼刺ヲ攻撃シ其防備ヲ破リテ先輝ア  
ル我勝ヲハタルヲ諸子ニ祝賀セントス  
抑モ我比列賓遠征軍ガ七ヶ渾ノ波濤ヲ踰テテ遠  
ニ其征地ニ至ルヤ先ツ兵負軍需兵ノ揚陸モ皆端難

ニヨル外ナク風強ク波高クテ意ノ以テ不意ノ國  
程ニ遭遇セリ加之熱帶地方ニ於テ時適ニ雨降ニ際  
諸子ノ戦地ニ於ケル困難ト其任務ノ重キ實ニ堪ヘ  
餘リアリテニ當リテ能ク半功ニ全ラシテ誇賞セムルニ  
至ルモ諸子カ常ニ勇剛ニシテ不撓不屈ノ志ヲ有シ終  
始ニ當リ先鋒軍ナリ要スルニ都テテラヤサニハる心  
志ニ只忍耐ニ以クモノナレト云フ可シ  
我軍ノ過幸カ比津濱ニ到着後三週日ヲ以テマシテ  
長ク西ニ支那ノ下ニアリタル西名領地ノ都市ハ已ニ戦  
有ニ歸シ先ハ諸子カ遠征ノ半功ヲ誇ルニ足ルヲ諸  
子ニ告白スルハ實ニ予ノ欣喜ニ堪ヘサル所ナリ  
余ハ不日特ニ功勞ノ諸子及其隊伍ノ名ヲ記シテ本國  
政府ニ具状スル所アリ可シ

日十日 未だ陸軍指揮官メリット少將兼防退艦ノ節  
礼砲ヲ發ス保護艦「エカヤ」防波堤内ニ入ルメリット  
少將ト対話中比津濱群島ノ所置テ付テ見テ尋  
テモ我軍軍人ハ只華盛頓政府ヲ受クル時々ノ  
命令ニ依テリ動ルニシテ將來ニ負シテハハハモ知  
ラズト高倉後四五ノ陸兵ハ到着ス可ク總計一万五  
千位ニ達ス可シト云ヘリ  
日十九日 英艦「ラトラー」カビテヨリ来リ防波堤内ニ碇  
ス

日廿日 獨艦「カイザリン」オーケスタニ香港ヨリ入港礼砲ヲ  
發シ直ニ應答ス  
日廿一日 獨艦「カイザリン」オーケスタニ香港ヨリ入港礼砲ヲ  
發シ直ニ應答ス  
司法本部ハ府庭内ニ置クヲ以テ重軽ハ捺印ノ上府



慶内家ヲ提中シ又出所出カノ主カハ都テ英文  
ヲ認メ可シト云フ告示アリ

(八月二十日) 詔文

(一) 税関執務時間左ノ如シ

自午前八時

至正午

但日曜日外必要係ハ臨時執務スルカント

(二) 海關稅目別ハ追テ改定スル迄是前通執リス

(三) 稅金納メカ左ノ種カ限ル

(甲) 墨銀

(乙) 香港上海銀リ手形

(丙) 印度邊清銀リ手形

(丁) 西比銀リ手形及同紙幣

月廿日 独旗艦「カイザ」蘭不女皇陛下即位式ノ為メ蘭

領バタビヤニ向ケ独旗「コルモラン」イロイロニ向ケ出帆独旗艦

ハ凡ソ三四週日ニテ再ヒ帰来スルト云フ

米國運送船「ベリニ」及「シケ」オフ「フェドラ」陸軍常備兵

約千八百名ヲ載セ入港「サヒロ」モ亦香港ヨリ入港セリ

本日ヨリ香港イロイロニ至ル電信開通執務セリ

月二十二日 午後一時英旗「イフセテ」香港ニ向ケ出港ス

(八月二十三日) 詔文

米國大統領ノ祝電 (以下少将死)

余ハ今回ノ戦役ニ於テ卿カ奏シタル顯著ノ偉勳ニ向

余ハ職權上国民ヲ代表シ卿ト卿カ麾下下将校下士

卒ニ對シ誠實ナル感念ヲ祝意ヲ表ス

(八月二十三日) 詔文

警察部長ノ告示

- (一) 馬尼刺市内警察告示ヲ公布スルカノ如シ
- (二) 掲示板ハ各掲示場ニ備ヘ置キ警察部ヨリ告示スル諸達ヲ貼付ス
- (三) 武装シタル土人及西兵軍人ハ其武器ヲ脱セシテ城内ニ入ルヲ許サズ
- (四) 酩酊シテ事ヲ弁セズ又ハ風紀ヲ乱スト認ムルモノハ差押可シ
- (五) 西兵將校ハ帶劔ヲ許可セラル

(訳者曰ク)

七月廿七日ヨリ帶劔ヲ禁セラレ現ニ市中ヲ往来スルモノハ帶劔者ヲ見ス固ク羞ムヨレハメリト將軍ノ西兵將校帶劔ヲ往来スル甚ク不愉快ニ感スル所ナリトシテ帶劔ヲ禁シ

タリト云フ

- (六) 指揮士官ハ其受持區域ヲ一昼夜一回以上必ず巡檢スベシ
  - (七) 靴ハ墨色ノモノヲ用ヒ真鍮類ハ常ニ光澤アル様磨キ置ク可シ
  - (八) 土人及西人ニ対シテハ勢メ懇切ニ米國以外ノ軍人ト雖此規規則ニ違背セシメザル様注意ス可シ
  - (九) 城内守衛ノモノヨリ通リ、將校ハ勿論都テ將校ニ付スルハ敬礼ヲ怠ラズ深ク注意スベシ
- 日三十三日 伊兵領事來船退航ノ節礼砲ヲ行フ東政府備入ノ英兵海底電線沈置船コレヨリ新嘉坡ヨリ入港スニテ港内沈置ノ海底電線ニ就キ各該國面ノ如ク沈置ノ位置ヲ知ル知港ヨリ報時球系ニ暴風信号在来ノ如ク施リヌキ旨通牒アリ

+

柳原考深外一名米國運送船ニ派シ視察セム報告別紙ノ通

日三十四日本國運送船「リオカヤ」ロ「ス」ベ「ン」ル「グ」ア「ニア」常備兵千八百名ヲ載セカビテ入港ス

米兵船隊司令友ヨリ片來陸難者ノ為メ使月モ西兵汽船ハ明廿五日ヲ以テ各私揚揚ノ保護ヲ旗ヲ撤シ午後米兵任命知港ヲノ命令ヲ受ケレメラシト通知越セリ依テ右ノ旨ヲ「エスカヤ」船長ニ通告ス

鈴木軍医大此の外四名ヲ「バール」及「カビテ」派シ視察セシム視察報告別紙ノ通

日三十五日保護船「エスカヤ」ノ帝心々旗ヲ撤シ河内ニ保護ノ任ヲ解ク聞ク是ハ船船ハ米兵海軍ノ捕獲トナラス凡テ所有者ニ還附セムモノナリト又本日知港

ヨリ河中ノ障碍物ハ既ニ取去リ高潮ニ於テ十五呎ノ水深ヲ得タリ依テ船舶ハ嚮導者ヲ用ヒ河中ニ入ルヲ得マレト通牒アリ

午前米船「シ」香港ニ向ケ出港ス船舶我隻初ナリ河中入り繋留スルヲ見ル

日三十五日 伊不領事ヲ吾訪ス米船「オリムピア」將旗ヲ「バ」全「ル」ニ「稿」シ午後四時香港ニ向ケ出港ス十日間ニシテ歸來ノ由ナリ

本日税関長ヲ財務部長ノ名ヲ以テ米國ヨリ輸入品ハ直接ト他港ヲ往テ来ルトニ關セス都テ他名ヨリノ輸入品ト同シク海關稅ヲ課ス可キ旨布告セリ

日三十七日 独船「ユルモ」ヨリ入港制規ノ以テ礼砲ヲ受ク「イ」ヨ「ハ」依テ西班牙政府ニ權ニ屬シ極メテ

手静ナリト云フ

中野大尉外吉名ニ内地流車旅リヲ會シ地方視察セシム  
報告別紙ニ通リ

本日調査セル米軍人ノ重ナル官職姓名別紙添付ス

同日 独船「ユモラシ」アリシセスウキルハハ英船「イムモタリヤ」船  
砲射撃ヲ為メ港外ニ出港ス

米旗船ヨリ士官一名米船ヨリ下將軍率和余約結定委  
負ヲ被命九月十五日佛心巴里ニ於テ開会スル儀場ニ  
列席スル為メ明三十日正午出発シ「ヤヤ」号ニテ香港  
ニ赴ク旨ヲ告グ

同日 午前八時十五分出帆コレギドムノ西水道ヲ通り午  
後零時四十分ハイコクヲ東北東ニ東五哩ニ見テ北西  
ニ西ニ変針沿岸航ヲナス

晴天ミシテ南西ノ微風吹キ驟雨時々来襲ス  
カボンス燈台ハ未夕点燈セズ

月三十日 午前六時ボリホ岬四下角ヲ正東十五哩ニ見テ  
針路ヲ北西東ニ変針

九月一日 午前十時四十分 北緯二〇・〇〇ニ於テ競潮帯ヲ見ル  
善ク去ル六月一日松島ノ遭遇セシモノ(北緯二〇・七)ト等シク未  
道流ト支那海流トノ交々ナラシ

正午船位 北緯二〇・五三 流潮ナシ  
午後六時推考 北緯二二・二ニ於テ北ノ東ニ変針

半曇ミシテ南西ノ至西ノ微風吹キ驟雨屢々至ル

同日 午前五時三十分打狗山ヲ北ノ東ニ東五哩ニ見  
テ北ノ西ニ西ニ変針

午後零時廿分東島北端ノ東北東三哩ノ處ニ東西

午後零時廿分東島北端ノ東北東三哩ノ處ニ東西

午後零時廿分東島北端ノ東北東三哩ノ處ニ東西



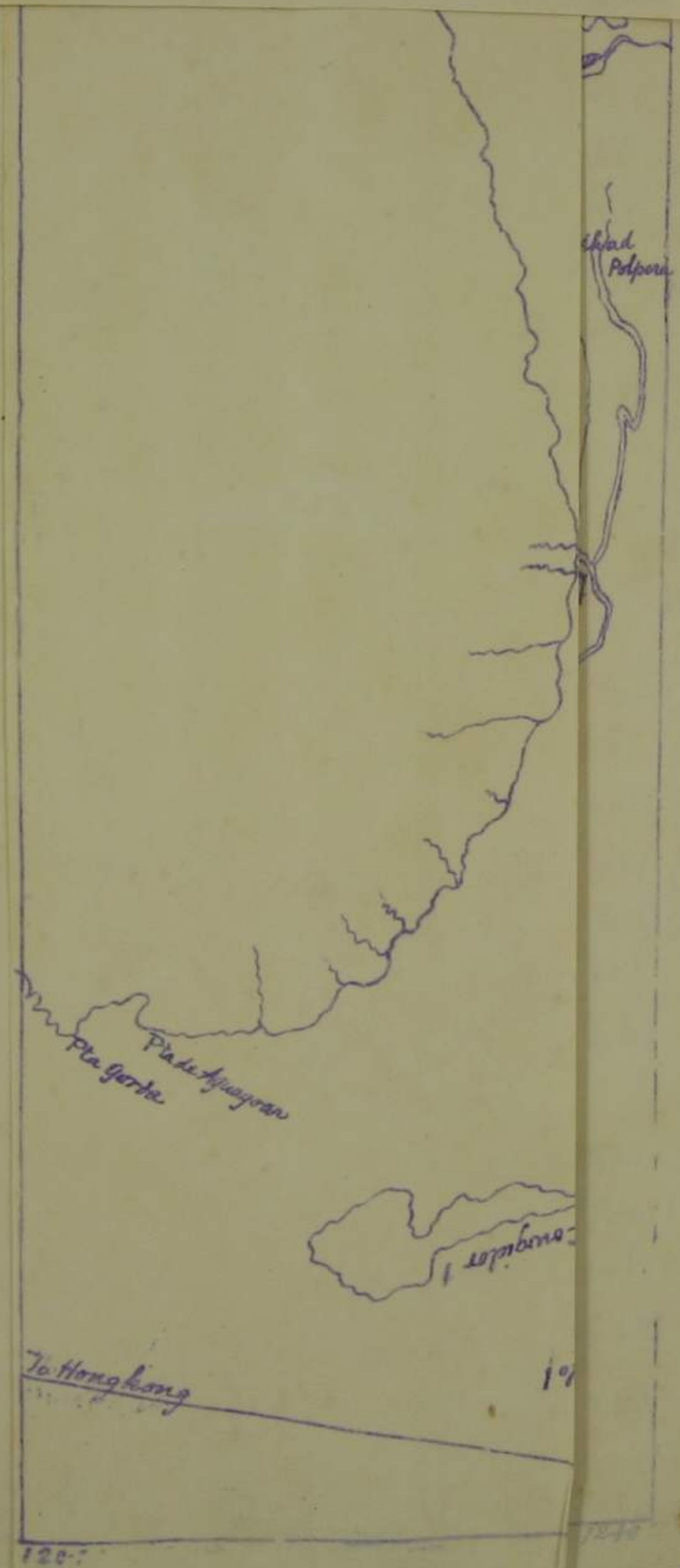
香港



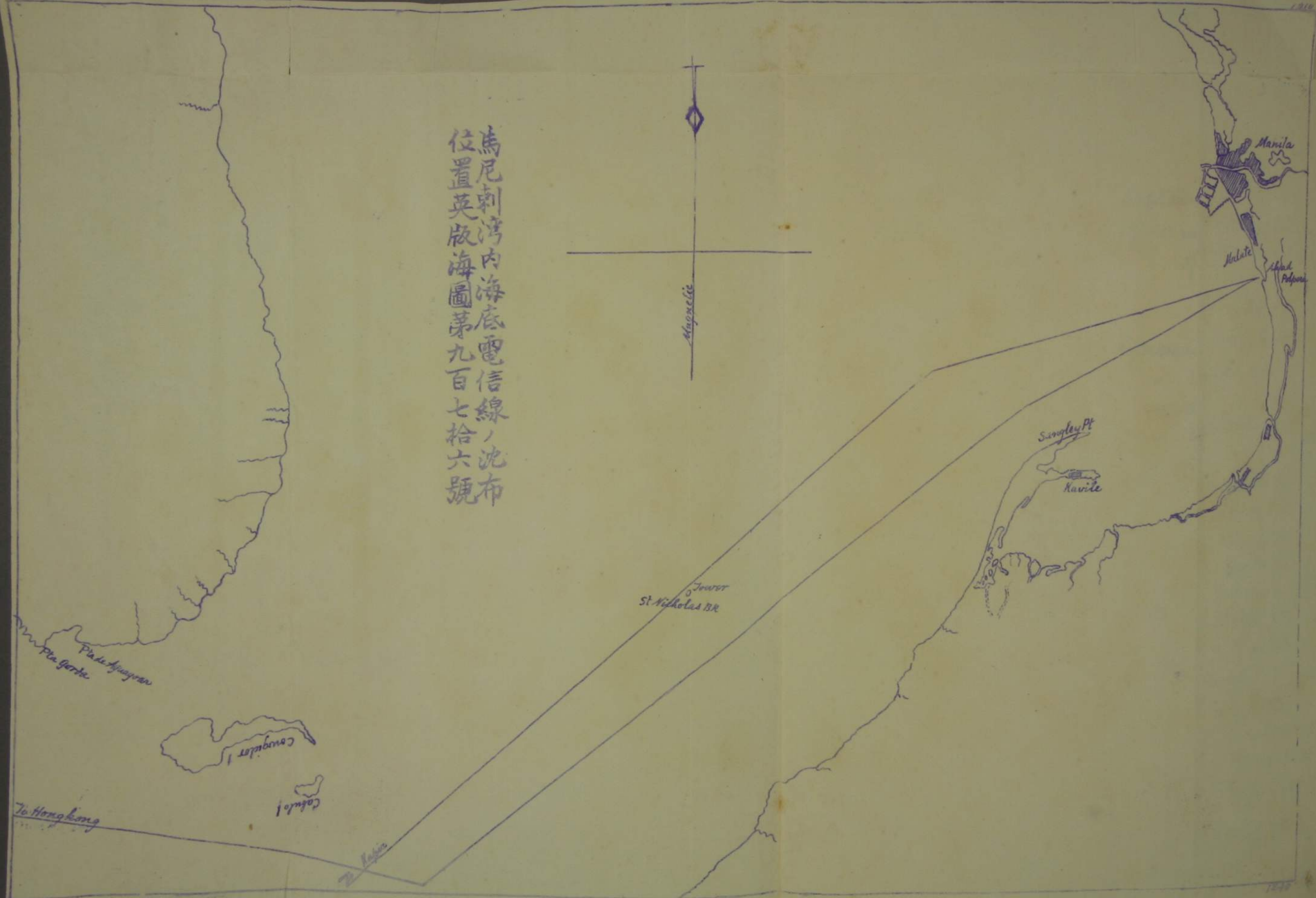
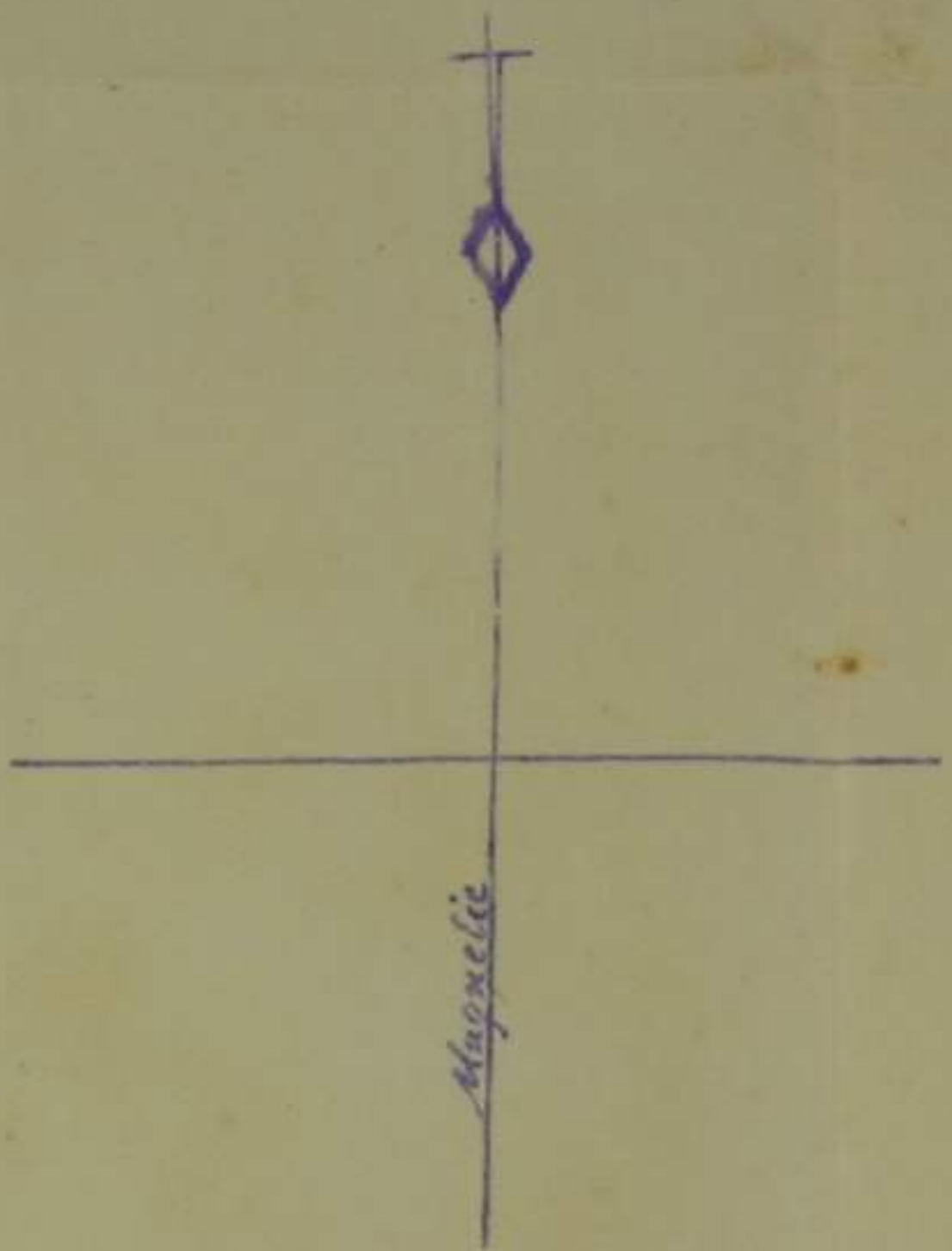
明治三十年十月調査  
船修理所  
石炭供給地  
電文文通

正々要スル兵  
一見見圖中修

オナダニ



馬尼刺灣內海底電信線，沈布  
位置英版海圖第九百七拾六號





Captain W. Merritt.

Officer in H. Barry (V)

of P. Scriven (V)

V. Sturgis (V)

Babcock (V)

Command A. MacArthur (V)

" Smith (V)

" 2

" Jushine

" 2

Vol Infantry

. Reeve (V)

S. Bean (V)

. L. Jewett (V)

. Bourns (V)

P. Maffet (V)

A. F. Green (V)

(Manila)

A. C. A. Witter (V)

. G. R. Colton (V)

B. L. Bement (V)

H. Sleeper (V)

V. Seeleg (V)

米國軍人  
之  
官  
職  
姓  
名  
(八月二十七日調)

Captain of the Post. Captain H. Glass (U.S.N.)  
 Officer in Charge of Water Supply of the City. Lieut-Col. C. L. Potter (V)

Command of the 8th Army Corps. Maj-Genl. E. S. Otes (V)  
 " 1st Division, 8th Army Corps. Brig-Genl. T. M. Anderson (V)  
 " 2nd " Brig-Genl. A. Mac Arthur (V)  
 " 1st Brigade, 2nd Division. Col. S. Owenshine  
 " 2nd " Brig-Genl. F. V. Greene (V)

備考  
 (V) 八里城守軍

Military Governor on the Philippine Maj-Genl. W. Merritt.  
 Adj-Genl. Lieut-Col. T. H. Barry (V)  
 Military Secretary. Major G. P. Scriven (V)  
 Acting Aide-de-Camp. Major S. D. Sturgis (V)  
 Chief of Staff Department. Brig-Genl. Babcock (V)  
 Civil Governor & Provost Marshal Genl. Brig-Genl. A. Mac Arthur (V)  
 Deputy Provost Marshal (City North of Pasig R) Col. T. S. Smith (V)  
 " {Out-side of the Walled Town, South of Pasig R Ermita, Malate} Col. S. Owenshine  
 Police Duty of the City. Minnesota Vol Infantry  
 Chief of Police. Col. C. M. C. Reeve (V)  
 Inspector of Police. Major E. D. S. Bean (V)  
 Judge of the Provost Court. Lieut-Col. C. L. Jewett (V)  
 Recorder of the Provost Court. Major E. S. Bourns (V)  
 Officer in Charge of Prisons. Captain W. P. Maffet (V)  
 Intendente Genl. de Hacienda. Brig-Genl. F. Green (V)  
 (All fiscal Affairs of Government of Manila)  
 Collector of Customs. Lieut-Col. C. A. Witter (V)  
 Deputy Collector of Customs. Lieut-Col. G. R. Colton (V)  
 Collector of Internal Revenue. Major R. B. C. Bement (V)  
 Deputy Collector of Internal Revenue. Lieut. C. H. Sleeper (V)  
 Officer in Charge of Post Office Department. Lieut. C. W. Seeley (V)

米國軍人官職姓名 (八月二十七日調)

八月十七日マラテ堡塁實視報告

マラテ堡塁ハ松島及秋津海船長依岩ニアリクハシク河  
口ノ南方約二哩マラテ町ノ南端バール御道ニ接シ海岸ヲ  
巨ル約千米突ノ位置ニ石垣ヲ以テ高弁五米突厚弁二米  
突ノ胸壁ヲ築キ其長(東西)五十米突幅三十米突許十  
リ壁上長短各二門ノ克式八挺砲ヲ装シ其射線ハ南方  
陸方面ニ面ス旧ト大葉庫ノ跡ヲ修築せんモノニシテ固ヨリ  
海上防備上ニ一價値ナシト云凡南方ヨリ侵入ノ陸兵ニ対  
シテハ一ノ要害を失ハス

米兵二分隊守衛シ自由ニ入門ヲ許セリ米軍砲撃ノ跡  
ニ就テ見ルニ格ニ楯以上ノ彈痕ト認メ得マキモノ十一個所  
ヲ算シ石壁モ又諸所破壊スルヲ見ル殊ニ奇ヲ感セバ  
嘗テ英艦ヨリ發セル田彈一の堡内梁上ニ宿リ今日ニ

至ル迄依如保存シアリ  
茲ニ留意スベキハ未飛隊ヨリ發セシ彈丸ノ多クハ炸裂セズ  
甚シキ石壁ヲ穿ツテ五十冊許シテ又跳シ居ル全形ノ彈  
丸ヲ見ル是全ク彈底信管ノ不完全ニ歸スルモノナランカ  
備砲ヲ換スルニ尾柱ハ脱去シテ臆中又發砲ノ跡ヲ認  
メ未飛隊守兵ノ語ル所ニ依テ保皇占領ノ當時西兵ノ  
死屍三十六ヲ獲セリト  
マシラ城ヨリマシラニ至ル途上諸所未飛隊兵ノ土人ノ市内ニ入  
ルモノ其身辺ヲ換スルヲ見ル又元シタマシラト軒頭及徒  
ノ旗ヲ翻シ歩哨ヲ配備シタル家屋十數何アリ皆及徒  
舎營ニ徵斃シタルモノナルヤシ  
途上亦友ガシ合遇スル土人ノ過半ハ皆敬礼ヲ施シ尊  
敬ヲ表スルガ如シ

八月十九日カビテ視察

午前九時カビテ造船廠内埠頭ヨリ上陸米國陸軍士  
友ノ誘導ニヨリ造船廠ヒリッテ砲台及カビテ市街ヲ巡  
視ス官立造船廠ハ曩ニ分志飛隊各艇ノ報告ニ見  
ル規模中ニシテ引揚船台大小二何アリト軍内埠頭力  
三百噸内外ナリ起重機ハ千八百九十四年ノ後備ニシテ  
約四噸ヲ揚グルニ足ルカ工場ノ内鍛工製罐場ナリ  
人職工五十餘名ヲ使役シ重ニ艦艇ノ小修理ニ任ズ  
シアルヲ見ル

武庫ノ一部ハ米軍ノ軍需品ニ他部ハ押収セシ兵器材  
料ナリ貯貯元テ又旧海軍本部病室等モ夫々守衛本  
部病室ニ使月ニテ入り入室患者ハ通常患者ニシテ僅ニ十數

名ナリ

此リ砲台、城門、星壁、何モ古代ノ建築ニシテ古色蒼然  
タリ、内部ノ家老ハ近世ノ建築ニシテ無我ノ田、彈ヲ以テ區  
劃、裝飾セル美麗ノ庭園内ナリ、現時カビテ守衛ノ末  
軍兵三、四、小隊及四門ノ極固砲隊在シ、星壁上諸  
所ニ歩哨ヲ配セリ、ガ島及砲艇、ローテ号等ノ西人  
約三百名、捕虜トシテ亦城内ニ收禁セラレ  
星壁上カカテ、港及カビテ市街ニ面シ、十二、柵乃至十五  
柵ノ滑、砲、敷門アリト、虽モ何レモ古式用ニ立ツモノナシ  
城門ノ傍ラ市街ニ面スル壁上、極固砲一門ヲ備ヘ、末歩  
哨之ヲ守ル、城内ヲビテ市街ニ通ズル一廣區ハ、西兵ノ練  
兵場ニシテ、嘗テ甚多ノ交徒、斃殺セラレシ所ナリト云フ  
カビテ市街モ亦、鏡タスニ石壁ヲ以テ、スト、壁、諸所破壊シ

四圍完全ナラス、北側ノ一部長サ約三百米、突間ノ石壁内  
ハ牢獄ニ使用セルモノニシテ、鐵柵堅ク鎖シ、雷濕屋ニ滿  
テ昔時ヨリ如何ニ西人ノ土人ニ對シ、慘酷ナリシヤヲ追憶ス  
ル、轉タ、凄然タリ  
市街ハ全ク交徒ノ有ニシテ、政廳、兵舎及病室、其他捕  
虜ノ收禁所、ハ悉ク在来ノ西國官有建物若クハ  
西人私有ノ家屋ヲ使用シ、交徒ノ歩哨ヲ配ス、末軍ニ  
テ此理セル病室一棟、市中ニナリ、患者ハ皆末兵ニシテ  
其數十四五名ナリ、交徒ニ收禁セラル、捕虜ノ多クハ  
顔色憔悴、病者モ亦從テ多シ、是レ蓋シ末食ノミシテ  
營養薄ク、刺ハ、餓、甚タ小量ナルニ起因スルナル可  
シ

歸途カカテ、港内ヲ巡視スルニ、ハテントスリツア、今社ノ工業

未々傳止中ミテ海戦當時ヨリ修理ノ為メ船台ニアル  
流船モ其傍ナリ又西人退軍ノ際自ラ毀壞セシ彼ノサ  
ンガレ岬端ノ砲台ハ顔破セル土壤石塊堆ク原形ヲ  
知ルニ由ナシ

此日港内ノ船船ハ未船「バルケモール」「ヤトレル」「コンコルド」「モノワド  
ノック」「モントレー」及捕獲ノ小砲船「ローテ」ヲおミシテ運送船並ニ  
南船十三隻ナリ沈没者六隻棄セル西國艦船砲身  
砲架ヲ依然朝ニ洗ハレ点々散在シアリ

### 米國運送船視察報告

八月二十三日午後一時米國運送船 *City of Puebla*  
ヲ訪問シ兵員輸送ノ大要ヲ視察ス

同船ハ千八百八十二年米國サンフランシスコ製鉄會社、製造  
ニ係ル *Pacific Coast S.S. Company* 所有ノ鉄船ニ

シテ千八百噸三千三百馬力速力十七哩ノ旅客船ナリ石  
炭八千八百噸ヲ積載シ得ルト云フ

船長ハ米人 *Goodale* ト云ヒ船員七十六名船長以下運  
轉手ハ凡テ固有ノ船員ヲ用ヒ機関部士友六十九名ノ

豫備及義勇海軍機関士ヲ使用セリ  
輸送陸兵ハ九百名内十七名ハ將校ニシテ其先任者ハ

*Major Rode* ト云フ  
本船ハ七月十五日桑港ヲ發シ布哇ホル、港ヲ至テハ

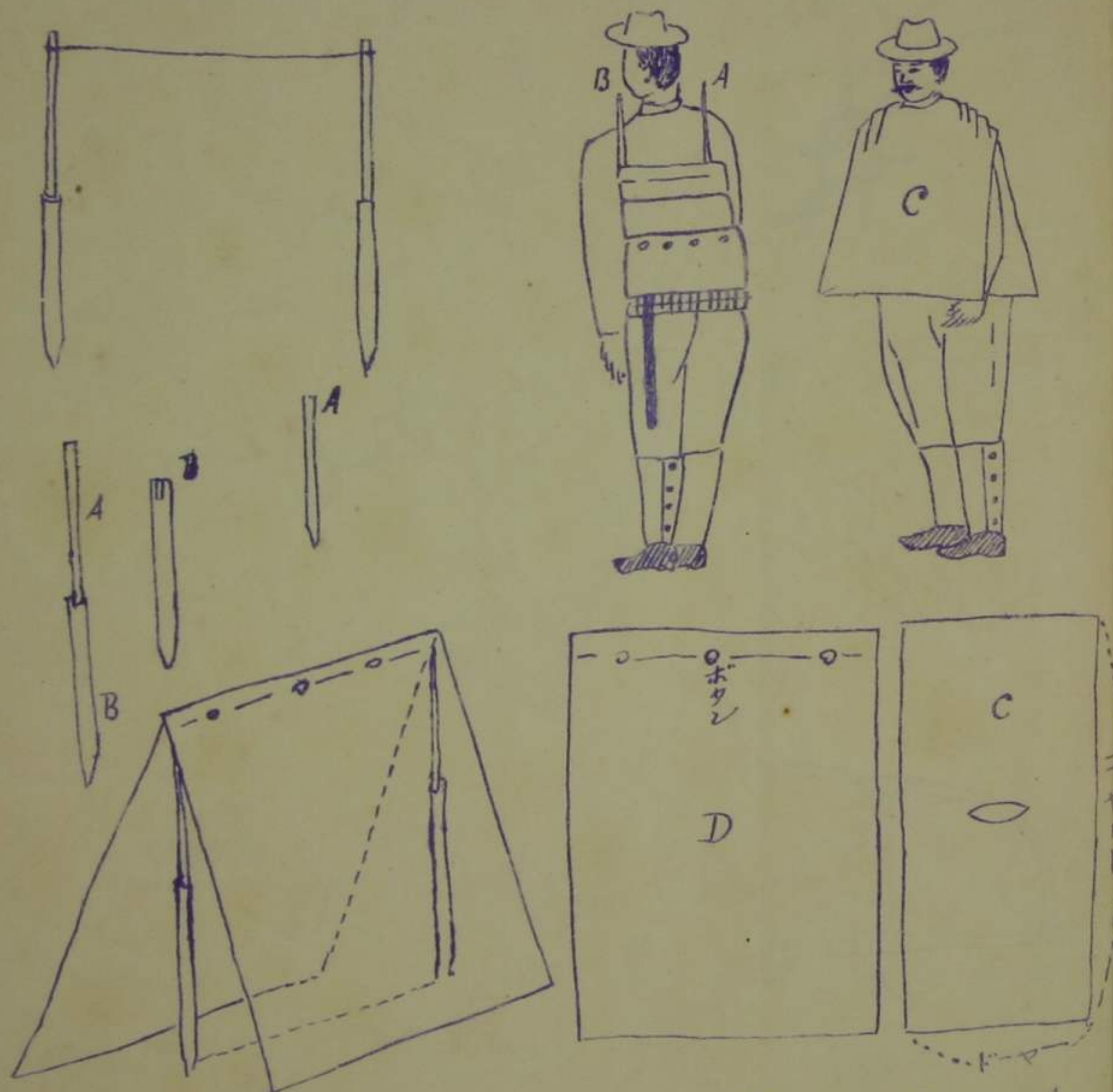
月二十日マシラニ着ス航海日数二十六日平均速力十三哩  
一昼夜石炭ノ消費量五十噸ナリ  
載荷八九百名ニ対スル三月分ノ軍需品及糧食ニ  
百噸ニテ馬足ハ搭載セズ

今回輸送ノ標準ハ二噸ニテ名ノ割合ナリト云フ  
本船ニ蒸溜器アリ一日千五百ガロンヲ得ベク其上二万  
ガロンノ水罐考酌ヲ有スルヲ以テ清水ニ自テハサシモ事  
欠ルガルノミナラス飲用雑用水共ニ制限ヲ置カズ  
又氷室製氷器ノ設備アルヲ以テ桑港出發ノ際廿六頭ノ  
牛肉ヲ搭載シ来リタルハ毎日一回生肉ヲ給シ且ツ麵包モ  
一回宛喫ヘキ他ハビスケツト及罐詰肉ヲ給ス一日ノ肉量  
一名ニ斤一斤半  
航海ニ至テ平穩ニシテ僅ニ三名ノ患者ヲ出セシニ以テ等

兵民生活及食物ノ急変ヲ来シ先為ノ生シん胃腸  
病ノミナリシヲ以テ我日ニシテ回復ヤリト云フ先ツ全船健  
康ナリト云フマキナリ

各兵ノ携帶品ハ武装・實包百発・二日分ノ糧食(乾糧)  
毛布一枚・飲水入・防水布(雨衣)天幕ノ半分及棒二本重  
量總計約五十斤米兵ノ体量平均百五十斤ニ対シ三分  
ノニ当ル過重ト云フ可シ

運送船内特ニ注意ヲ惹キタルハ特製ノ寝台ナリトス  
日清戦後ノ際我運送船ニテハ後リニ木製客棚ヲ設ケ  
兵貨ヲ起卧セシメタリシカ本船ニアリテハ別紙圖面ニアル  
如ク鐵格ニ鐵線ヲ張リタルモノニシテ至極簡單且ツ堅  
牢ナリ船室内ハ云フニ及ハス各部ノ甲板上ニ鉄若クハ木  
製支柱ヲ立テ輕便ニ二層若クハ三層ノ客棚ヲ作り

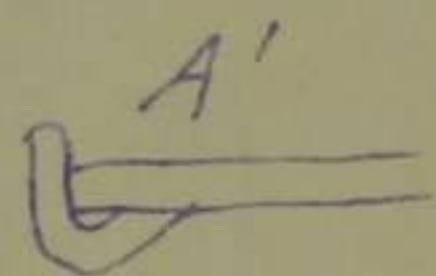
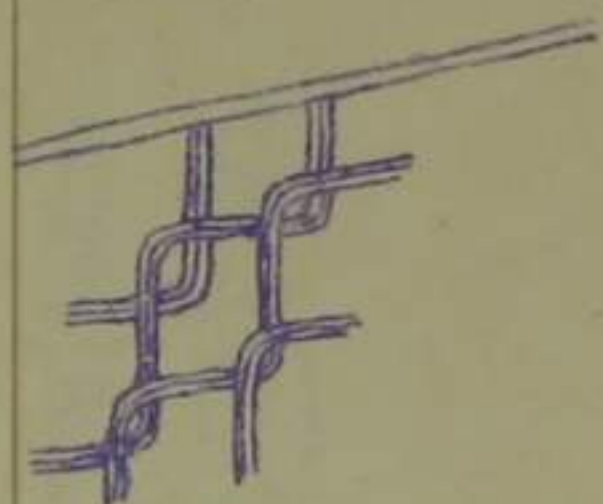


A B 天幕の棒二本  
 合して一支柱トナル  
 C 防護布(雨衣)  
 D 天幕の半形  
 兵員二名居ると即ち  
 合して一天幕ヲ為シ  
 得ル仕組ナリ

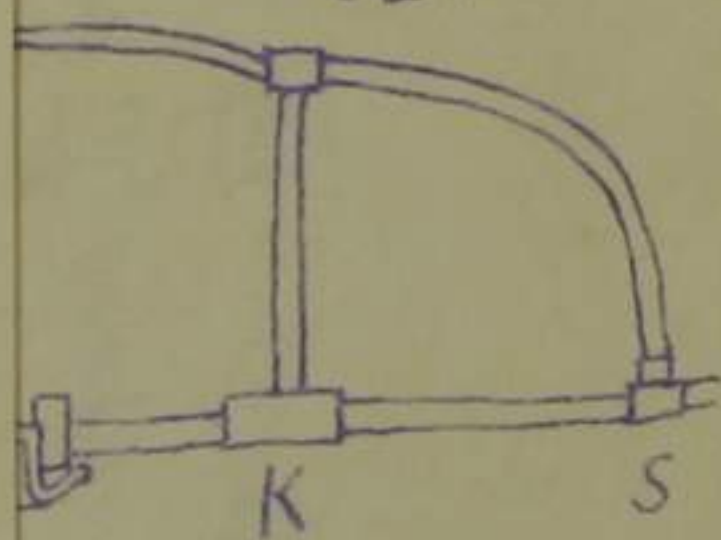
解除も亦容易ナリ杖種清潔ニシテ虫類ノ附着スル  
 事ナク且ツ久シキニ堪ヘ不用ノ節ハ大ニ容積ヲ要セ  
 スニテ武庫ニ貯存シ得ヘシ此等ノ点ヨリ考ヘハ一  
 度限りノ木製客棚ヲ作ルヨリハ反テ經濟ナルト  
 思考ス



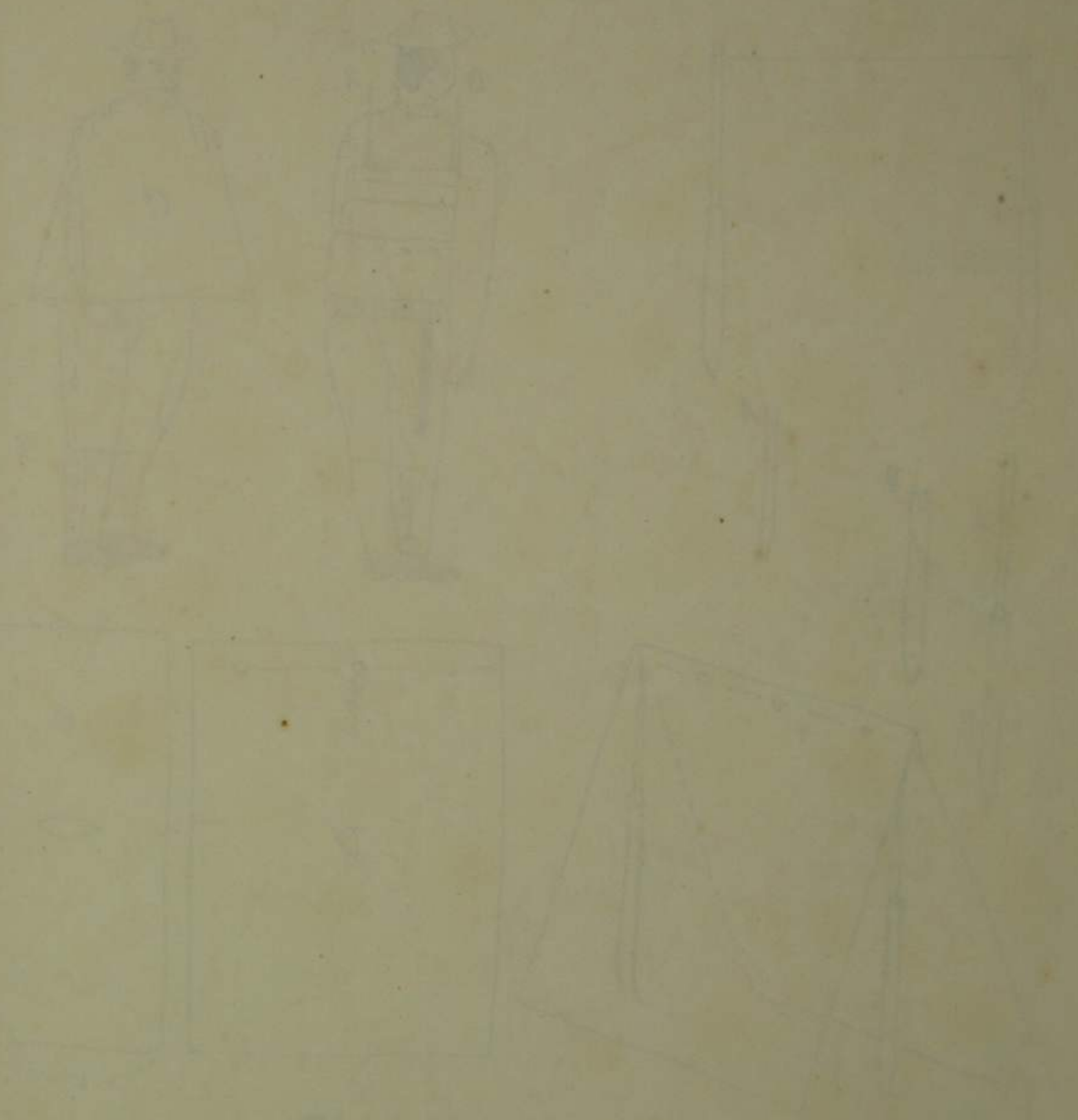
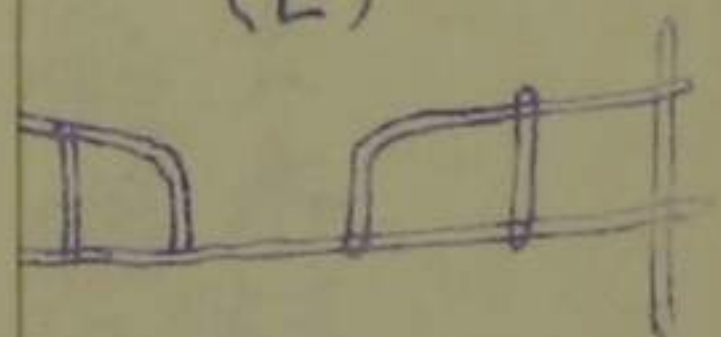
(D)



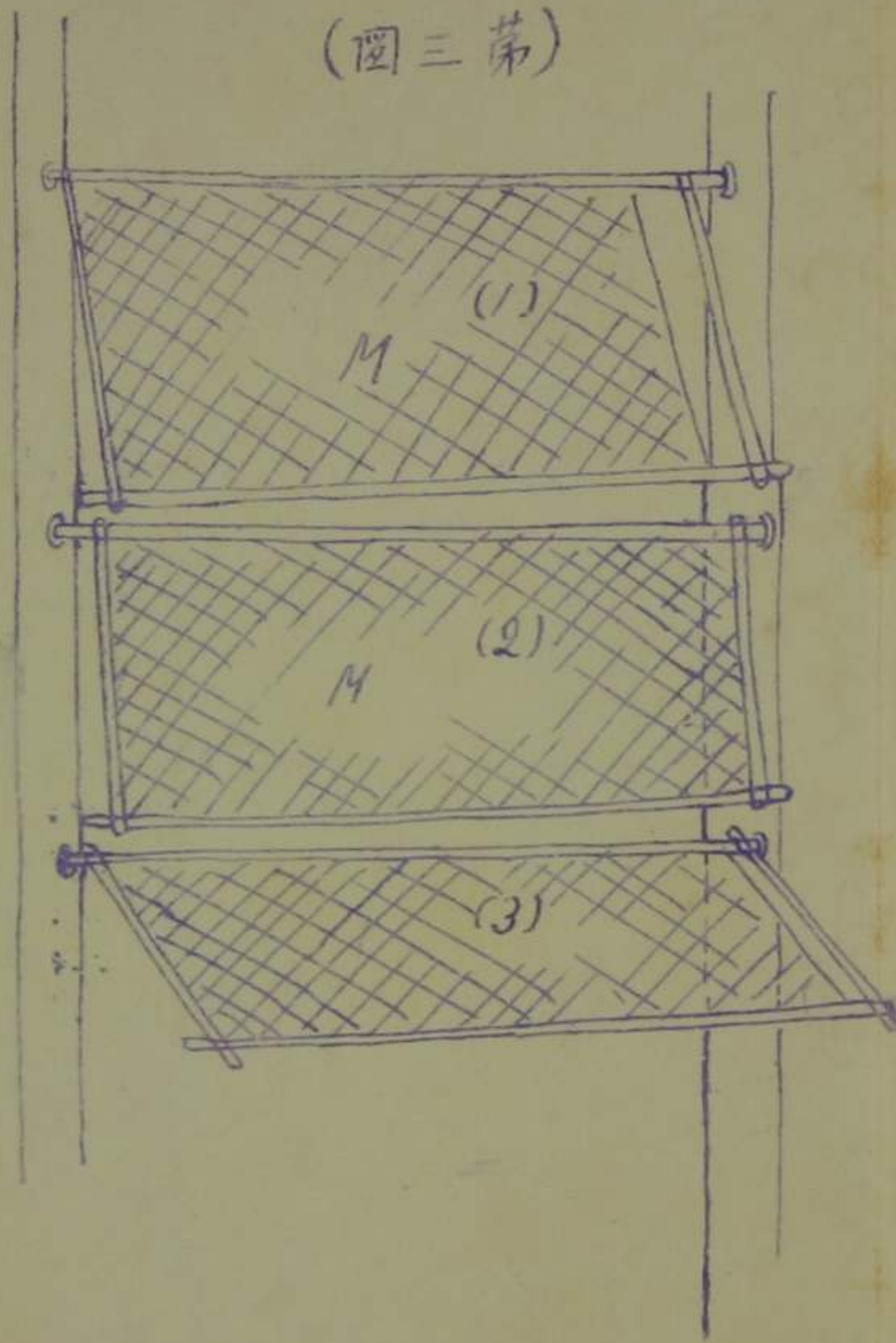
(E)



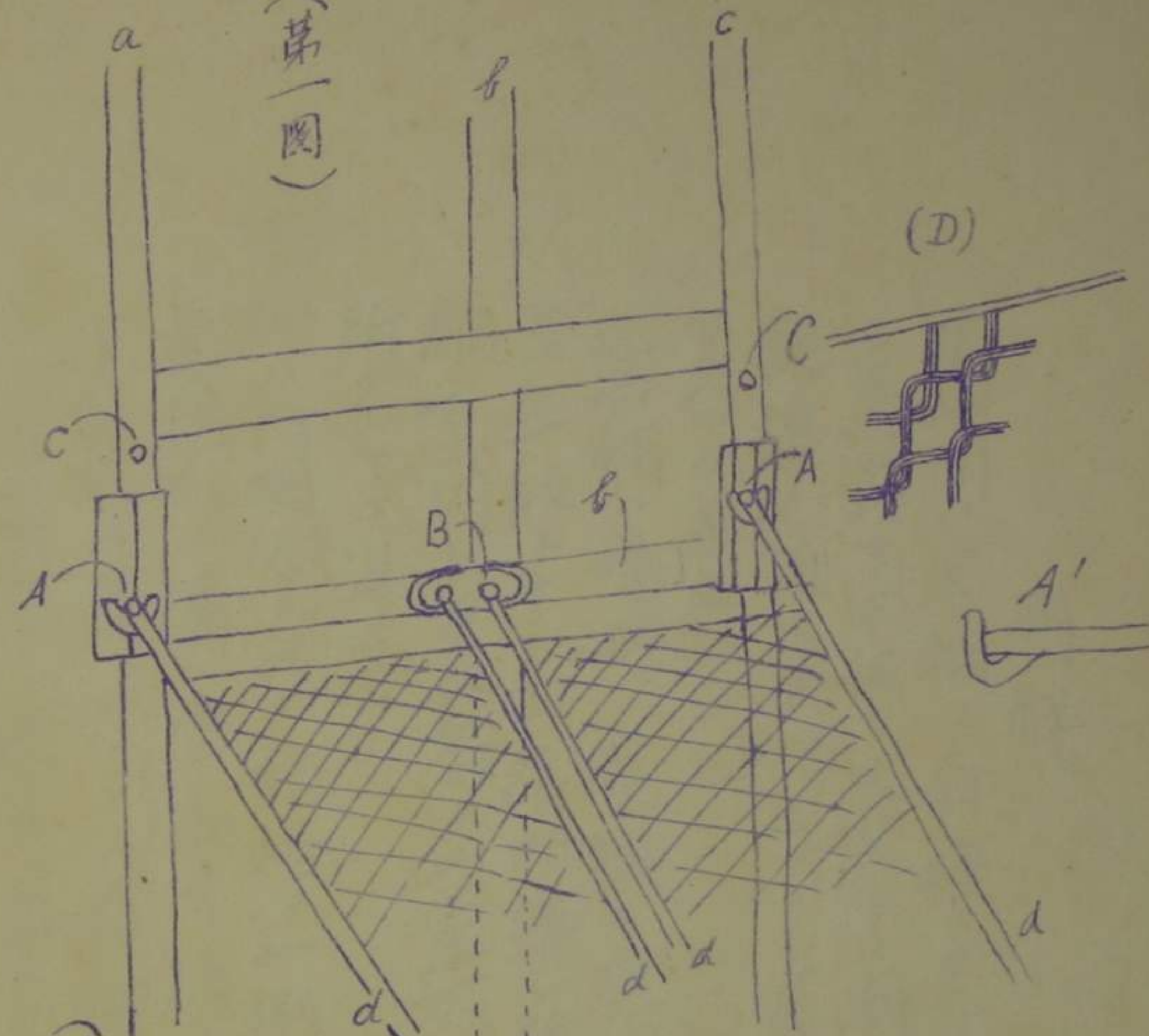
(E)



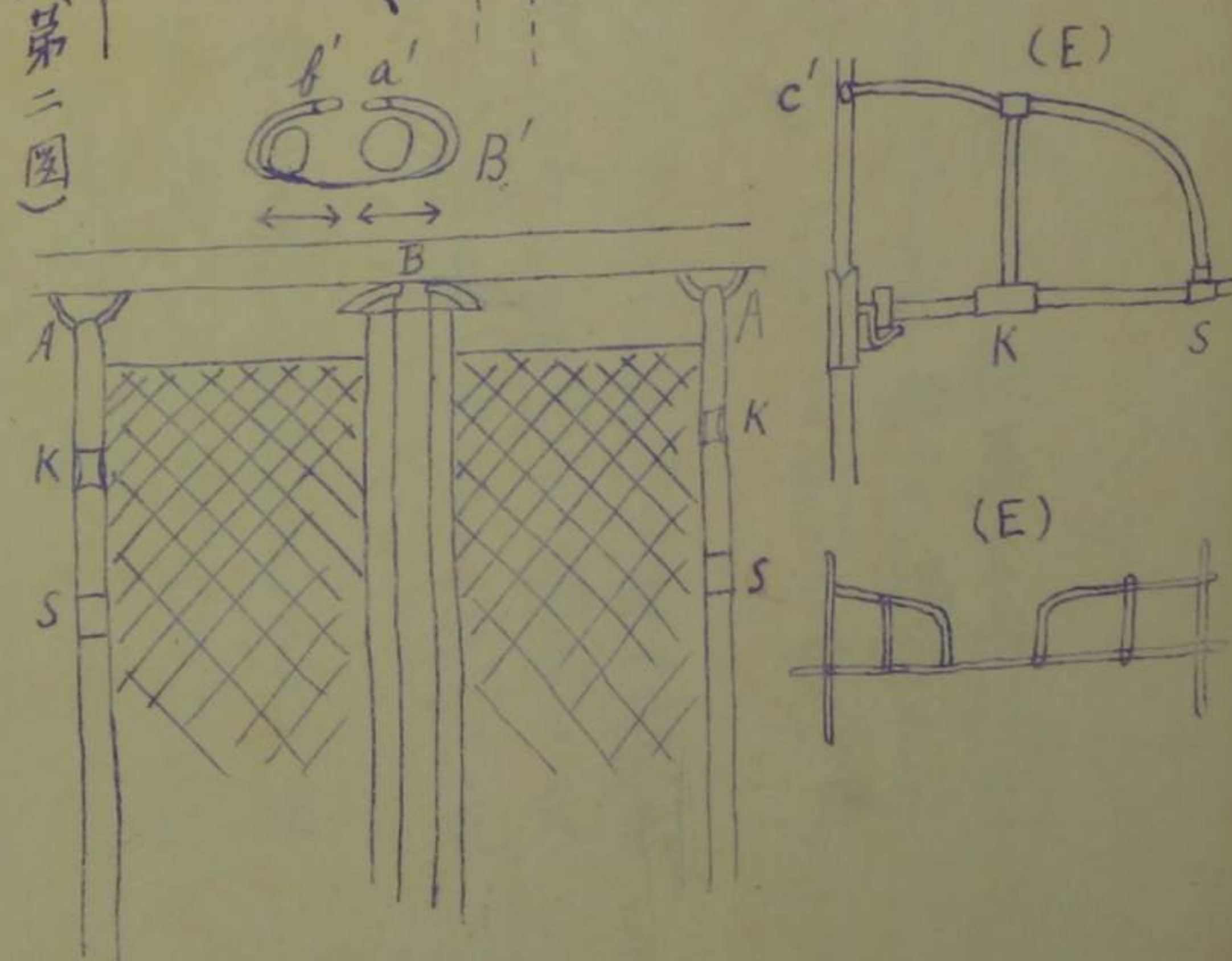
(圖三第)



(第一圖)



(第二圖)



圖解

第一圖ハ客棚ヲ斜横ニ見タル圖ニシテ鉄若クハ木柱(A) (C等)ヲ以テ甲板ト天井トノ間ニ支柱ヲ立テ之ニ鉄格ニシテ 鉄線ヲ張りタルハスアリシグマツトレノ二個ヲ并列ニテ取附ケラ レタルヲ示ス

此客棚ハ場所ノ廣狹ニ應ジ貳個若クハ三個ヲ兼ヘ二段若クハ三段トナシテ前後相接シ幾百十ノ客棚ヲ構成ス又 船室内ト密比者クモ空所ノアル限リハ一個若クハ二個ノ取附クルヲ得可シ

(A)ハ附圖(A)ノ如ク鉄格ノ一側端ハ支柱ニ取附ケタル小ナル鉄製弧形ノ溝上ニ嵌マリ隨意ニ取外スルヲ得可シ即チ之レヲ取外スルハハベツトハ鉄格ノ他側端(B)ヲ軸トシテ垂下スルヲ第三圖ノ如ク該圖ハ上方(1)ヲ垂下シ(2)ヲ其底ニナシタ

ル状ヲ示ス

(B)ハ階固(B)ノ如ク積木(F)ニ五階ケラレタル階田形鉄「アロク」ニシテ  
 鉄格ノ他側端嵌入ス「アロク」ノ溝ハ廣クシテ「マッド」ヲ取附ケ  
 若クハ取外ス其鉄格ヲ中央ニ遊動セシメ其切ロヨリ出入セシム  
 如クス

(C)ナル穴ハ(E)回ニ示ス如ク船体動揺ノ際「マッド」ヨリ底下スルヲ  
 防ク為メニ設ケタル鉄製手摺ノ一端(C)ノ嵌入ス所ナリ

「マッド」ヲ垂下若クハ取外ス片ハ先ツ該手摺ヲ(C)ヨリ外シ二百  
 七十度轉回セシメ即チ「マッド」ノ裏面ニ收ル如クス之レカ為メ「マ  
 ッド」ノ裏面鉄格ニ穴ヲ有ス

(D)ハ鉄線ノ端方ヲ示ス

第三回ハ若柵ノ上ヨリ見下シタル回ニシテ其(A)ト(B)トハ第一回  
 ノ(A)ト(B)トニ相應ズ又鉄格ノ(K)ノ第一回(E)回ノ(K)ノナリ

附言

「マッド」ハ長サ六呎幅二呎ニシテ上段ハ「マッド」トノ間凡ソ  
 二呎ナリ又手摺ノ高サ凡ソ半呎ナリ

マツリ湾内ニ於ケル重九艇出入表(八月廿三日以後)

船名	出入	港地	月日	行先	港地	月日
米運送船	出	嘉	八月廿三日	先	嘉	八月廿四日
美電線沈置船	入	嘉	八月廿四日	先	嘉	八月廿五日
米運送船	入	嘉	八月廿五日	先	嘉	八月廿六日
米運送船	入	嘉	八月廿六日	先	嘉	八月廿七日
米運送船	入	嘉	八月廿七日	先	嘉	八月廿八日
米運送船	入	嘉	八月廿八日	先	嘉	八月廿九日
米運送船	入	嘉	八月廿九日	先	嘉	八月三十日
米運送船	入	嘉	八月三十日	先	嘉	九月初一日

記 事

別紙ニ於ケル海底線修理為  
 ノ米運送船  
 米兵七百八拾載  
 米兵七百八拾載

英艦隊沈没船  
 米艦オリーブヤ  
 独艦コルモラン  
 独艦コルモラン  
 英艦イムモクリヤ  
 独艦プリンススウ  
 米艦運送船  
 千ヤイナ  
 豫報(佛)旗艦バヤード

八月廿七日

附記旗丁善第三二号報告艦出入表中

英艦「ビクミ」の記事中ハ相違ニ有脚取消相成度

独艦「カイヤ」の記事中「三四回同」ヲ「帰来」ガ「記事」ニ入度

八月廿六日  
 八月廿六日  
 八月廿六日

十日間位ニ再帰来由

八月廿九日  
 八月廿九日  
 八月廿九日

翌三日松島ノ航路ニ北航スルヲ  
 艦砲射撃ヲ為メ

八月三十日  
 八月三十日  
 八月三十日

以リット少將巴里ニ托ルニ米西和米  
 約會議ニ参加ス

八月三十日  
 八月三十日  
 八月三十日

佛國領事ヲ傳聞

マニラヨリバギール・オールドキヤビテヲ経テカビテニ至ル  
 實視及反徒ノ虞スル報告  
 八月二十四日午前八時本艦委マニラヨリバギール・オールドキヤビテ  
 カビテヲ経テ二十五日正午帰艦ス  
 一行人名左ノ如シ

- 軍医少佐 鈴木重治
- 主計少佐 細井彌三郎
- 海軍大尉 山中紫吉
- 同 榊原忠三郎
- 海軍少尉 毛利陽三
- 通 譯 富岡邦七郎

バレット河口ノ防材トシテ用ヒラレ名荷舟一列及其内方ニ沈没シタ  
 ル帆船三隻ハ今ヤ全ク破壊ノ上取除キ其上流ニ於テ燒棄セラレ

先西国武装運送船「セゴ」号モ取除ニ着手申ナレバ不日吃水  
十呎ノ噸大ノ船ト莫クスベシ橋迄入ルコトヲ得ルナシスベシ橋  
ノ下流左岸ニ上陸シテ車ヲ馳テ後橋ヲ渡リ城壕ニ至リテ  
進ミヨリ公園ヲ過グ

園ノ内公園ハヨリ城陷後毎日夕刻ヨリ軍人及  
市民盛装馬車ヲ馳テ來集スルニ數知ラズ輕車肥馬園  
ニ充テ注ガタル羨望ニ伴ヒ遊劇娛樂ノ伴一見別天地ノ如  
キ觀アリタルモ今ヤ世ノ様モ哀シキヲ果テ僅カニ市民ノ  
涙ヲ忍ルモノ曉ク点立スルヲ見ルノミナリト云フ

公園東端ニ二十四班許ノ砲二門ヲ備ヘタル砲台ナリ五月日  
後我々日六彈着ノ如何ハ兒ニ命カビテ陣ニ於テん米國艦  
隊ニ向テ發射シタリト云フ  
内公園ニ於テ米國陸軍兵約一師中隊各十隊各的散開運

動教練ヲ行ヒワアリ其動作一見我海軍銃隊操式ト異ナ  
ルモノナク其舉動拙ナラズ太ク見ルルマキモナリ

マラテノ砲台ヲ過キ郊外ニ出テカビテニ通スル街道ヲ進ミ行  
クノ約千五百米突一帶ノ掩堡アリ始メ反徒ノ築ク所ナリ  
レモ七月十五日ヨリ米軍ノ據ル所トナリ修理ヲ加ヒ稍ヤ強

堅ニセリト云フ大俵ノ構造ハ竹及帆布製袋ニ土ヲ盛りタル  
土俵ヲ骨子トナシ高サ約二米突頂上一米突基礎ニ米  
突ナリ其コレテ砲台正南方面ノ此キハ反徒コレヲ包圍シ米  
該砲台ヨリ屢々野砲ヲ發射ヲ蒙リタルヲ見ヘ其附近家

屋ノ如キ彈痕点々殆ント破壊ニ近キモノ見ル  
行ク下約千米突路傍ニ二十四班許ノ滑膛砲二門其車輪  
ハ車ハ土中ニ埋モレタル俣捨テラシムヲ見ヘ反徒コレテ砲台  
射撃ノ目的ヲ以テカビテヨリ城ノ所迄運搬シタルモ當攻

擊方面ヲ米軍ニ讓リタルヲ以テ茲ニ放棄せんモノナリト云フ  
 行クコト約五百米突手垣ナル一面ノ畑地街道ト海岸ヲ經  
 茂レ来ル叢森トノ間ニ外ニ在ルヲ見ん其幅負平均約  
 二三百米突ミテ廣狹等シカテ一望ニテ米突ニ在ル間  
 喬木ノ点々散在スルニシテ一ノ障物ヲ存セズ比レ即チ  
 米軍ノ幕营地タシボナリ其北端ノ喬木上ニ望樓ヲ設  
 ク恰モ角カノ櫓ノ如シ且ツ枝梢ヲ以テ組ミタル木柵アリ其  
 ヲ南方面畑地ノ尽クル所迄ハ皆其营地ニシテ架台ニ用ヒ  
 タル竹ノ規則正レク直立スルヲ見ん之ニ由テ察スルニ戦争  
 實況報告ニ記載スル如ク一銃班ヲ各中隊ト定メ中隊  
 縦隊ヲ以テ二個旅團ノ露营地ヲ爲シタルモノ如シ而シテ其天  
 幕ハ特種ノモノニシテ兵員各自天幕ノ半分及支柱一本二本  
 ヲ鍵ヲテ約一米突許ノ支柱トシテ宛ヲ有シ二人合スル即チ小形

天幕ヲ形成スル装置ニシテ其附近民舎ニ竹製寢台ノ累  
 積スルト舎营地ノ現状ト實施者ノ談話ニヨリテ想像スル  
 ニ如左圖地上隨意ノ高サ二尺ヨリ五六尺ニ至ル竹ヲ植ニシ  
 竹製寢台ヲ結ビ付ケ其上ニ天幕ヲ張り防水布ヲ敷キテ  
 寢臥シ克モ人如シ其約五ヶ金貨二万弗ヲ費シタルト  
 聞ク



特種天幕ノ説明ハ運送船實視  
 報告ニルヲ以テ畧ス

該幕营地ヲ過キ進ムト約一哩半十時三十分ハラニヤケニ看馬  
 車乃村ノ北端入江ノ橋畔ニ駐メ小休ス  
 米軍上陸地ハ即チ此ノ入江ニシテ一見河口ノ如ク橋ヲ架ス橋  
 ヲ海濱迄ノ間約二百米突許リ能ク灣内ノ風波ヲ防キ兵

貨及貨物ノ陸揚ニ便ナリト云凡地ニ狹隘ニシテ大軍ノ上陸ニ  
適セズ傳聞スルニカビテヨリタシボニ至ルノ距離僅カニ十三哩  
ニ過キズ一日ノ行軍里程尤モ拘ハラズ米國ハカビテ屯在ノ陸  
軍兵輸送ヲ七月十五日ヨリ始メ日々運送船ヲ以テ約二週  
間行ラ費シテバチヤケニ場陸セシト云フ

吾人ヲシテ其ノ理由ノ却辺ニアルカヲ疑ハシム東人ハ曰ク吾ハ急カ  
サルナリ陸上行軍ハ病ノ發生ヲ促ス原因ナリト案スルニカビテ  
ヨリタシボニ出ヅルニ是ガ陸路互徒ノ根據地タルオルドガ  
ビテ及ハマル等ヲ通過セザ可カラサルヲ以テ其煩ヲ避ケルナリ  
ト云フ

内地ノ橋梁ハ極メテ粗造ニシテ木ヲ打込ミテ橋柱トシテ  
板ヲ係列シ其上ニ竹ヲ敷列シタルニコレヨリ來ルニ  
用車ノ馬ハ驚ヒテ鞭ヲモ進マズ是亦亦解備ニシテ

危陵ヲ感セリ橋ヲ過グレハ宏壯ナル寺院ノ屹立スルアリ當時及  
徒ノ占領スル所ナリマリヤノノルエルト稱スル反徒ノ將軍此處ニ  
アリ兵約五百屯在ス

ハラニヤケニ於テ更ニ馬車ヲ備ヒラスビヤ村ヲ過キ正午サホテ  
川ヲ越エ河ハ僅カニ幅ニ米突許ノ小流ナルドモ往年反徒  
蜂起ノ際並ニ今年五月三十日ヨリ三日ニ亘リ西兵據テ以  
テ防戦セルニヨリ有名ナリ始メ反將エミリラアギナルドノ香港  
ヨリカビテニ上陸スルヤ兵ヲ以テ集ルモノ數千直ニオルドカビテ  
ヲ板キハポールヲ占領シ一鞭直ケニマシラニ進コトス西軍サキテ  
河ヲ扼守シテ防戦大ニカメタリト云凡地土民兵ノ叛亂加フ  
ニ及陸西軍ノ左翼ニ迂回シ兩面ヨリ執撃せんヲ以テ  
西軍遂ニ利アラマシテ退キコレテ砲台ニ據リテ防禦セリ  
ト云フ



牛車零時五分 八ツルニ着友徒大統領事務所ニ至リ  
午餐ヲ喫ス

副官  
秘書

Rimosa Fuam Aleuan  
Escarquilla

等大ニ余等一行ヲ歓迎シ應待頗ルカハ  
彼等卒然トシテ向テ曰ク願ハクハ米國ノ当群島ニ於テ  
政策ヲ固クコトヲ得ルカ吾人ハ終ニ米國ト戦ハサレバカ  
カト色平カラズ頗ル苦慮ノ状アリ也云々ニ近着ノ新聞  
紙上ニ於テ米國呂宋島ノ割讓ヲ西國ニ請求セリト  
コトトル電報ヲ掲載セシヲ以テナラム余等答テ曰ク米國  
政畧ノ如何ハ我等門外者ノ知ルマキ所ニアラズ然レドモ其  
大勢ヲ察シ其舉動ニ鑑ミシハ或ハ一時米國保護ノ下  
ニ置カレヤモ知ん可カラズ然レトモ是レ寧ろ貴下等ノ為

マ幸福ナリト考フ試ニ思ヘ国民憤起シ其ヲ執ツテ我ハ易  
シ一國ノ基礎ヲ創定シ列國ノ間ニ立ツテ能ク國權ヲ保持  
スルハ難シ見ヨ東洋ノ現状ヲ列國互ニ極ノ乘スバキモノアレバ一  
外ノ肉ト蚕取ツテ以テ其怨ヲ滿タサント欲ス豈深ク空業ヤ  
ルベケンヤ休等吾テ曰ク貴諭誠ニ然リ然レトモ亞細亞ハ  
之シ元ト亞細亞人種天惠ノ居宅ニアラスヤ人アリ貴下  
ノ住家ニ侵入シ而シテ去レト余スレバ以テ如何トナス亞細亞  
ノ事ハ煩ク亞細亞ニ於テ所置セザン可カス吾人ヲシテ心情  
ヲ吐カシムルハ東洋内人種中先輩トシテ強國トシテ最モ  
敬服スル貴國ニ對シ依頼スルコト頗ル多シ今大統領  
エミリテ、アヤカド 微恙 オレドカドテノ私宅ニアリ貴顧ノ深  
ク賜ワレバ至大ノ幸福ナリ云々  
一行元ヨリ望ム所ナルハ考深秘書ニ導カレ馬車ヲ馳ワテ

オールドカビテニ赴ク路程の一哩半達中河アリ渡河船奇  
異ニテ幅約二間長サ約五間大ノ長方形ニ升ヲ束ネ其  
上ニ板ヲ敷キ欄杆ヲ設ク一見恰モ橋梁ノ一分タルカノ  
觀アラシム然レドモ其浮揚力ハ頗ル不ト頭成キ馬  
車三台人十名ヲ搭載シテ容易ニ彼岸ニ達ス伎製渡  
船トシテ輕便ナリト思考ス

午後三時廿分オールドカビテニ着其ノ私宅ニ大統領  
ギナルドヲ訪フ同地ハ彼ノ產地ニシテ其私邸ハ誕生ノ家  
タリ土人風ノ建築ニシテサシク歐風ヲ交ヘ小且ツ粗造ナ  
レ民土人ノ村落中ニ稀ニ見ル所ナリ目下亟廣メ工事中  
ナリ彼ハ平素外人ト接スルヲ嫌フモ尙ラス懇懇ニ一行  
ヲ迎ヘ歡待至ラザルナレ  
余等始ノ想像スラク彼レギナルドハ容貌魁偉眼光人

ヲ射リ雄辯輕快談笑ノ間能ク事ヲ處スルノ才アリト云  
スルニ及レテ大ニ其然ラザルヲ知ル彼ハ純粹ナル土人ニテラザルモ之レニ  
近ク脊丈ケ低ク瘦形ニシテ顔ニ痘痕アリ粗髭ヲ鼻下ニ蓄  
フ孟子ノ所謂之レヲ望ミ人君ニ似ス之ニ就ケトモ畏ル、所ヲ  
見ストハ評シ得テ餘アリ一見通常温厚ノ村夫子然概ア  
リ然レトモ座ヲ據シテ之ト語ルニ及メテ始メテ知ル彼ハ沈  
勇ニシテ寡言一言一句ヲ苟モス人ヲ威服セシムルノ風ヲ有  
セスト虽氏人ヲシテ親服セシムルノ天品ヲ有ス蓋シ通常平  
凡ノ士ニ非ザルナリ座定ムルヤ靜カニ述マテ曰ク共ニ亞細  
亞人ニシテ同ノ種タル而モ吾人ハ曷モ敬服スル大日本帝  
國海軍將校ノ來訪ヲ辱フスルコトヲ得タルハ余ノ曷モ  
歡喜ニ堪ヘザル所ナリ恨ムラクハ兵馬控息ノ後百事未  
夕緒ニ就カズ諸君ノ満足ヲ得ル接待ヲ為スコト能ハザルハ

大ニ遺憾トスル所ナリ云々余等モ亦彼レガ意ヲ近ヘ今回  
ノ成功ヲ賀セシニ彼レ曰ク吾米國ノ協議進リ中ナレ共ク  
決ス吾人ノ目的タル独立ニ對シ將來ノ運命ハ如何ニ成リ  
行々未タ知事ヲ得ス大ニ憂慮ニ堪ヘザリ所ナリ余  
等曰ク始メ東西難ヲ構フルヤ貴下憂國ノ士ヲ集メカ  
我苦闘米比協力シテ唯一ノ目的タル西國ヲ壓服セシ  
メ茲ニ一段落ヲ告ケリト然レ今ヤ貴下及比律賓群島  
民發生ノ希望タル独立ノ成否特ニ定マラントスル時期ニ移  
リ外交ノ苦難ナル事ハ我レノ易キニ比スベキニ非ス余  
ク貴下ノ説ヲ聞クテ得ル手伸レ答テ曰ク貴下等ノ言  
ハ之レ皆ヤ肺腑ヲ出スル所感荷ニ堪ヘザリ如何マン今  
日ニ於テ余ノ責任ハ非常ニ重大ニシテ諸君ノ貴向ニ答フ  
ルコト能ハザルヲ恨ム然レモ独立ニ對スル余ノ決心ハ死ヲ以

テ成功ヲ期スルニアリト云フヲ躊躇セズ其ノ状一言一句ヲ慎  
重ニシ容易ニ口外スルヲ欲セサルモノ、如シ時將ニ四時十分  
共ニ阜ラ固テ茶菓ヲ喫シ五時辭シテ丸木船ニ乗シ  
カビテニ航ス

大佐 *Walter Dipeye* 及 *Yongam* *Angels* 城外ニ  
一行ヲ迎ヘテ曰ク只今大統領ヨリニ名ノ貴人其地ニ行ク極メ  
テ鄭重ニ待遇ス可シトシ電報ヲ受領セリト即ヤ傳フニ政  
府ニ之レ政府ハ元ト西ニ政府カレテ知事ノ改廢ナリシヲ  
反徒之ヲ占領シ新ラタニ知事ヲ任命シリ政ヲ掌攬セリ  
知事ヲ *Emiliano Rizo de Quins* 任シ陸軍中將  
部團長ナリト云フ知事屬僚ヲ以テ言ハシメテ曰ク諸君ノ未  
遊ヲ辱スニ雀躍ニ堪ヘザリ所ナリ諸君ニシテ若シ若クテ厭  
々面謁ノ業ヲ賜ハスハ幸福ニ過キカト羨支ナキ旨ヲ報

レ公室ニ於テ會見ス知事ヲ始メトシ陸軍少將 *Salvador*  
*Alvarez* 其他重ナル文武官陪席ス知事曰ク同血族ニ  
シテ見別ケ難キ容貌ヲ有シ而モ東洋ノ一雄國トシテ吾人  
ノ尊重敬慕スル諸君一行ノ来遊ハ實ニ此ノ國ノ名  
譽トスル所ナリ特ニ吾人此國ノ榮華ニ就テハ百事貴國  
ノ内情ヲ知ルル最モ必要ナリト信ス云々 諸笑我十分退  
シテ晚餐ヲ喫シ *Calle real n.º 24, Divisoria*

*Asistencia de Conserjos de Pulicicia* 海ス  
ニ五日 午前八時出發交徒、舎宮及病院ヲ見ル兵舎ハ城  
内ノ傍ラニアル漁劇所ヲ以テ本部トシ其他市街ノ兵舎ヲ  
徴発シテ舎宮ス其ノ生活極メテ單純ナルカ故ニ寢具ナク  
食器ナシ食スルニ指ヲ以テシ寢ルニ床ニ以テシ一軍隊ノ  
概圖ヲシキモノヲ有セス病院ハ末比兩國ノモノヲ見察ス

徒ノ財政等ニ至ラハ未タ確ナル概圖稅源定カラズ確實ナ  
ル報告ヲ爲スニ苦シムヲ以テ大要ヲ記スルゴトトナセリ 醫務ト共ニ  
終末ニ附ス  
午前十時汽船ニ搭シヨリニ到リ正午歸着ス

實視ノ要領

今圓ノ實視巡行ハ單ニ表面ノ觀察ニ止マリ殆ント價値  
アルノ報告アルナシ然レトモ之レヲ皮相的觀察トシテ看過セ  
又能ク玩味セシカ蓋シ裏面的ノ多ク情ヲ探究スルヲ得毎  
サノ参考材料トスニ足ルヘキモノアリシカ  
一 自称革命政府ノ現状

首領アキナドハ及徒ノ戴ヒテ統領トナスニ足ルノ才識ヲ  
有シ深慮寡言土人ハ鬼神ノ如ク敬ス其麾下ニ  
奉スル内閣各大臣ヲ友職ニシモハ多シ地方名望  
有シテ多クノ才識ヲ有シ其他ノ高才友ハ在マシロヤ  
ール、エドボイ、カール、ユマー、レー、オ、セ、ト、ト、ラス、出身ノ士若  
クハ外國修学ノ士ニシテ何人ノハ共ニ語ルニ足ルノ才能アリ  
去ル十五日馬尼刺知事ニ任命セラレタル「アプロシテ、フロス  
ハ法学士ニシテ嘗テ西國陸軍參謀大尉ナリト云フ此  
ノ如ク該政府ハ既ニ憲法ヲ發布シ各省大臣及海知事  
ヲ任命シ各局部ニ電線ヲ布設シ通信ノ便速ヲ計ル  
ハ外觀上ノ組織ハ着ル歩ヲ進メ稍ヤ完全ニ行政  
機關ヲ具備スルノ觀アカシト雖モ此ノ翻テ其理想ヲ  
模スニ待テ其目的ヲ遂クルニ急ナルヲ以テ形ヲ先ニ

實ヲ後ニスルノ憾アリ故ニ其機關ノ滑動ハ頗ル疑ハキ  
モノアルヲ覺ユ又彼等ノ有ル兵力ハ十萬ト稱シ其内武  
器ヲ有スルモノニ萬有余然レモ之レ皆武器ヲ執テ  
集リタル憂國ノ士ニシテ死ヲ以テ國家ニ殉スル志旺ナ  
ルモ軍隊精神ニ至ラハ大ニ欠ニスル者アルヲ見ル如此機  
關如此軍隊ヲ以テ獨立ヲ守内ニ宣セント欲スル夫レ  
難キカヤ

ニ現狀革命政府ノ取ルべき最良政策

余等ヲシテ彼等ノ為メニ目下ノ狀態ニ就テ其積極的  
最良ノ策ヲ言ハシメ未國保護ノ下ニ在テ進歩發達  
ヲ勉メ基礎ヲ固メ根底ヲ深クシテ目的ヲ永遠  
ニ期スルニアリ此レモ美名ナル未國ノ仁依的保護ハ時  
運ノ進歩ト共ニ殖民的行為ニ変スルナキヤハ吾人ノ比

共

律賓人ト共ニ大ニ危ム所ナリ

三 外國ニ對スル土人ノ意見嚮

嘗テ諸方面ヨリ傳聞スル所其他觀察ニ依リ對米

國尤ノ三種ニ區分スルヲ得可シ

甲 大ニ好意ヲ表スルモノ

此種類ハ殊ニ馬尼刺市中ノ土民ニ多シ而シテ其意中  
ヲ探グハ米人ハ必ス反徒ヲ助ケテ其独立ヲ承認スベ  
ク其報酬トシテ土人ヨリ軍費ヲ賠償セバ可ナリト云  
フカ如ク簡單ナル考ヲ有スルモノニシテ無智昧ノ階  
級ニ屬ス此種類中稍ヤ智識學カアル輩ニシテ予  
ラ米國保護ノ影ニ息ハントスルモノアリ此一派ハ代言  
人若クハ香港邊ニ在ル者ニ多ク反徒首領中ニ極メテ  
僅サナリ而シテ彼等モ独立ト保護ト何レカ勝ルト尚ハ

一モ二モナク独立ト答フルモ大ニ自ラカノ足ラサルヲ恐ルモノ  
如シ

乙 全ク可否ノ意見見ヲ有セザル者

此種類ニ屬スルモノハ最モ下級ノ愚民及ヤ氣力ノ人民トス  
其種尤モ多シ此種類ハ容易ニ米若クハ其他新勢力ニ  
服従セシムベシト雖モ亦々反對ニ容易ニ之ニ鋒ヲ執ラシ得  
可シ

丙 徹頭徹尾独立ヲ獲收セリト欲スルモノ

此種類ハ反徒則ケ自ラ革命軍ト稱スル者ノ首領株及  
米々反徒トナリテ鋒ヲ執ラザル有力者トス此種類ハ目下  
比律賓ニ於ケル原動力ト見テ可ナリ勢力強シ  
此種類ヲ更ニ細別スルハ軟硬ノ二派ニ分ツテ得ヘシ硬派  
ハ米國カ反徒ノ力ニ依テ今日迄幾多ノ有利便益ノ位

其

置ニ立ケシモ 國ヲス 今日馬尼刺陥落ノ後々ハ武器ヲ  
有スル及徒ヲ市中ニ入ルヲ峻拒セシムナラズ 末國ノ独  
立承認モ望ミサナキニ至リシヲ以テ大ニ奮慨シ去ル十四  
日以来馬尼刺ノ末人ヲ攻撃スヘシト屢々マギオドニ迫  
リシ輩軍ミテ及徒ノ將校中ニ多シ

軟派ハサンリコ及二三名士ノ一派ニシテ在馬尼刺末人  
攻撃ヲ止ムルモノナリ 軟派モ軟派ト云ヘ決シテ末人  
ノ保護ヲ望ムモノニアラズ 末攻撃ノ理由左ノ如シ

(一) 攻撃スルモ他日ノ紛擾ヲ招クニシテ末國海上ニ堅艦  
ヲ有スル以上ハ馬尼刺ヲ保持シ難シ

(二) 今日及徒ヲ馬尼刺ニ入ルハ 標奪其他ノ不品行ヲ外  
人ニ顯タシナラズ 西班牙人ノ虐殺スルノ患アリ故ニ市  
内ニ入ルヲ拒ミシハ却テ幸ヒナリ云々而シテ此輩軍ハ到底

永久米ト親密ナルヲ望ムニアラズ 平和條約確定後成  
行ヲ見テ而メ後及徒ノ色ヲ表ハスモ 壓カラスト云フニナリ  
此ガハ今日專ラ武器購入ト他國政府ノ援助ヲ求ムル  
トカカル者ノ如シ

(對西志) 従来被リタル壓制ノ反動力大ニシテ如何ナル  
自由政治ヲ布クモ 帰服セズ

(對日本) 全国舉テ好意ヲ表スルモノ如シ  
其理由タル元ヨリ多クタルニキナレ 要スルニ左ノ諸原因  
ハ其重ナルモノ如シ

- 一、日本人ト容貌ノ極似スル處ヨリ白人種ナリト信スル
- 二、我國ノ勃興ヲ羨望敬服スル
- 三、西國政府カ日本ヲ比律賓群島ハ奪畧者ト誤  
認シ 絶對的ニ嫉視セシ反動トシテ日本ヲ以テ確實

尤援助者ト信シ居ルヲ等ナリ今彼オカ日本ニ対シ  
其言ハント欲スルヲ言ハシメバ故ニ今日ニ至ルモ日  
本ハ援助セザル哉ト云フニアリ又其求ル所ヲ云ハシ  
ムレハ左ノ三級ニ分ツテ云ハシ

第一 武器彈藥ノ供給ヲ得タキ

第二 若シ末國ト兵ヲ交ユルニ至ラハ日本ハ率先シテ自  
己ノ独立ヲ認メ交戦志ト認ム

第三 陸海兵力ヲ以テ援助スル

要スルニ彼ハ唯一ノ目的タル独立ニ対シ干渉者ヲ抑  
壓ヲ加フモノアルハ其日本ハ末國トテ論セス然  
始鎮壓スヘカキハ反抗ヲ止マサルニ要スルニ今  
日ニ於テ求ル所ハ仁俠ナル強國ノ保護ニシテ之レカ  
為メニ末國タルト日本タルト敢テ撰マサル所ナリ也

レトモ各項ニ述ベタル感情上可相成ハ日本ヲ撰ムト  
云フニ過キス試ニ日本ノ保護ヲ得ルニ至ラハ如何ナル  
条件ヲ以テスルヤト問ヘハ曰ク

日本ニ屬スト云フニ至ルモ固ヨリ保護國ノ名称ヲ欲  
者ヲ戴キ内閣其他官僚ノ機關ハ土人ヲ以テ組織  
シ若干ノ税ヲ日本ニ収ムベシト云フニ在リカ也



醫務衛生ニ関ス事項

軍医少監鈴木重治報告

明治三十一年八月二十四日午後旧カビテニ於ケル反徒ノ巨魁即チ  
 自称大統領或ハ革命軍トモ稱スルエモリヲアギナ  
 ルド氏ヲ其自宅ニ訪問シ本艦佐士官ト共ニ面會シテ曰ク  
 (鈴木少監問)ト輩ハ日本帝國軍艦松島ノ一軍醫タリ豫テ  
 閣下ノ赫々タル英名ヲ慕ヒ一面識ヲ得ニテ疾クヨリ希  
 望セシモ如何セン米西戦争中ニシテ我帝國公局外中立ノ位  
 置ニアリ且馬尼刺ヨリ交通ノ途遮断セラシ其希望ヲ果  
 ス能ハサリシニテヤ既ニ馬尼刺市モ閣下ト米國ノ手歸戰  
 争モ殆ト終局ヲ告ケ交通モ自由トナルヲ以テ本日同僚ト  
 共ニ当地旅行ヲ止テ初ノバゴールニテ本營ヲ訪問シ幕僚  
 ニ就キ閣下ノ面謁ヲ乞ヒシニ閣下ハ自宅ニテ病癒療

養中にも係らず其等ヲ引見セラレタルハ我々尤モ光榮トス  
ル所ナリ閣下ニハ是迄數月間千軍万馬ノ間ニ奔走セラレタ  
ルモ面貌等ニ疲勞アルヲ見ス健顔タルヲ拜シ一曰満足ニ堪ハ  
ズ

(アギナルド) 答ヲ謝

(鈴木少監同) 貴軍ト西軍ノ間ニ是迄數度陸戦アリ本艦等  
ヲミラニ碇泊中連日連夜銃砲ノ聲ヲ耳ミセシカ多分貴軍ニ  
於テモ死傷多カリシナラシ全軍ニ於テハ幾何ノ數アリシヤ

(アギナルド) 答) 極テ少數ナリシハ最モ本官ノ僥倖トス處ナリ全  
軍ヲ降テ漸ク二百名内外ノ死傷者アリシナラシ

(鈴木少監同) 貴国人民ノ生活法ヲ一見スニ皆米食ヲ以テ主  
食トナシ我日本帝國国民ト畧テ其軌ヲ一ニス然ルニ我帝國陸海  
軍人中數年夏氣ニ多數ノ脚氣症ヲ生シ之カ為ノ死ス

ルモノ少ナカラス困難セシトアリシカ今回ノ戦争中貴下ノ軍隊  
有テハ左様等ノナアラガリシヤ

(アギナルド) 答) 馬尼刺地方ニテハ毎年少シク同症ノ發生シ  
スヲ聞クモ我軍隊中同症ヲ多發シテ困難セシトナシ

(鈴木少監) 我日本ニ流行スル脚氣症ハ貴国ノマニラノ症ト  
同症ニテ本病ハ米食ヲ多食スル地方殊ニ亞細亞方面ニ  
流行スル疾病ニシテ我本國ニ於テモ初メ其病原ヲ推究ス

ル者ニ或醫士ハ傳染病説ヲ唱ヘ或ハ魚類中毒症トナシ其説  
一定セザリシ當テ我海軍々醫總監ニ爰ニ見ル所アリ本病ハ  
全ク米穀ノ多食ニ歸シ兵食ノ食物ヲ改良シテ麥飯トシ  
或ハ早ニ食ハハス麵包ヲ與ヘ肉食ヲ増加セシメ今脚氣  
症ハ我海軍ニ於テ全ク其根ヲ絶ク我陸軍ニ於テモ近年海  
軍ニ習ヒ麥食ヲ奨勵セシニ全症著シク減退セリ若シ今后

貴國ノ軍隊ニリキモ同症多発スルカ如キナキニ計ラセザルナリ  
然ルハ兵員ノ食物ヲ改良シテ來リ食フニ混シ肉類ヲ増加セ  
シララルハハ必ズ其跡ヲ斷ツニ至ルベシ御注意ニ為テ敢テ一言ニ  
（アギナド卷）手謝為シ方一右等ノアルハハ必ズ御忠ニ從  
フニシ然レモ麥穀ハ元來我呂宋島ノ產物ニアラズ只ミシタナ  
地方ニ少許ノ収獲アリ同クミシタルハ遺憾トス所ナリ  
（鈴木少監問）元來貴國ノ醫師ハ洋法ヲ以テ養成セシ或ハ  
獨國西班牙國ニ在テ學術ヲ備メタルモノナラカサルヤニ承  
知リ學術治術共ニ變ハ見ルニ足ルベキ者アラシ就テハ貴下  
ノ部下ニ屬スル病院ヲ拜觀致シタシ御許可下サルベキヤ  
（アギナド卷）御覽ノ通り當村ニハ一ノ病院ナリ然レトモカビテ三  
ノ本病院アリ高醫ニ任ズ可シ  
（アギナド問）何日頃御見舞ナヤ

（鈴木少監卷）是ヨリカビテニ向セ本夜全所ニ泊シテ明朝科  
覽ヲ乞ヒタシ  
（アギナド）然ラハ是ヨリ電報ヲ以テ同地ニん我知事ニ命令  
シテ御希望ニ應スル  
是ヨリ茶果饗應アリ其席上ニ於テモ亦々種々談話ヲ試ミ  
其の（アギナド）曰ク貴國ハ天然ノ美國ニシテ一般開明ニ趣キタルヲ  
聞ク視察ノ為メ渡航ヲ試ミタシ谷テ曰ク然リ貴國ハ毎年  
三四五ノ月間ハ盛夏ノ際ニテ凌キ難キ時節ナレドモ我日本  
國ハ同時節ハ熱カラズ寒カラズ櫻花満開シ最良好ノ季節  
ナリ日本ニ遊バルニハ必ズ其季節ヲ櫻ニ抑遊航アルベシ又抑渡  
航ノ其貴邦トハ趣ヲ異ニスル所モアリ珍奇ナル事モ少カサ  
ル可シ或ハ遊覽セズ所ト云フベキ宮ノ下温泉或ハ日夫ノ  
如キ処アリ近年内為ス抑斷行アルベシ

アギルド答ヲ謝御意ニ從ヒ度存不

夫レヨリ大統領即チ辭ニ幕僚等ノ周旋ニテ一ノ舟ヲ雇ヒ同  
郎附近ノ海岸ヨリカビテ軍港ニ着セシニ互徒ノ聯隊長大佐  
某乃師團長副官某我々一行ヲ迎工師團長(神將系)ノ  
政廳ニ導カレタリ同所ニ於テ暫時別室ニ休憩シ而後  
乃其他ノ文武官ニ面會ス互徒ノ病院長トニコスニカバリスアレドモ  
氏其内ニテリ小官ト親シク語ヲ交テ同リ軍醫總監ヤ Matata  
Thomson 本日御面會スベキノ処同人昨日未用向為  
ナ馬尼刺府ニ行キ帰港セザルニ由リ本官其代理トシテ出  
頭ニタルヲ述ブ而シテ共ニ種々雜話ヲナシタル后十官等明  
朝八時頃貴院ヲ拜觀致シ御差支ヤヤト問フ先方ニ於テ  
モ其時刻最モ都合ナルヲ答フ然レ后同政廳ニ於テ晚  
餐ノ饗應ヲ受ケ同所ヲ辭シ同地家家ニ約シ而シ朝午

前八時ヲ期シテ互徒ノ病院ニ到ル院長医員看護等院内ニ  
於テ小輩ヲ迎ヘ室内ニ入既ニ散水シテ掃除セラレタリ

病院

本院ハ元来西班牙政府ノ市立病院ヲ借用シタル者ニシテカビテ  
市内ニテリ門外ニ赤十字旗ヲ掲揚セラレ構造ハ石造ニ  
シテ廣大ナル病室四棟アリ各ニ階造リニシテ階上階  
下共ニ連者ノ入室ヲ便ニシ病床凡ソ四百基ヲ有ス其内  
ニ院長及医官ノ事務室アリ看護ノ扣所アリ士官病  
室ハ兵員ノ者ヨリ區別セシ患者ハ都テ寢床トシテ置  
カレ院內見ルニ足ルヤモノアリ然レ后外科患者及傳  
染病モ共ニ同室内ニ混同セラルバ遺憾トスル所ナリ又戦争  
后事故院內概不潔ニシテ患者ニ清潔ナル病衣ヲ兵服  
ノ俣床トシテ轉スルヲ認ム

清潔

入院患者は當時百五十名内外あり其内反徒患者よりハ西班牙兵捕虜多數有リル三分ノ二ハ西班牙兵ナリトス  
全院ニ於テハ敵味方共ニ同室ニアリ同等ノ待遇ヲ受ケラレ  
療セシムルハ最モ感賞ニ堪ヘリ所ナリ又西班牙士官ノ負傷者或ハ其他ニシテ入院患者タル者十餘名アリ其内軍  
医官モ一名腕腸症ニテ入院セ被等ハ兵卒ヨリ區別セシテ  
一室内ニアリ特別ノ待遇ヲ受ケ居ルガ如シ  
病症ヲ類別スルハ戰事負傷者凡ソ十名内外アリシトシ最モ  
多キハ赤痢麻拉里亞ニシテ全負殆ト十分ノ八ヲ占メ其  
他腸室扶斯皮膚病等アリ脚氣症ハ只一名ノ入院者アリ  
リシニ其患者ハ土民ニシテ山下肢ニ水腫アリ麻痺ヲ訴  
一日本ノ脚氣ニ異ナルヲナシ治療法ヲ尚ヒシニ只牛乳療法ヲ  
行フナリト云フ該患者ニ就キ日本国ニ同種類ノ脚氣症多

敷ナルヲ説明シ療法ニ於テハ特効藥ト稱スル者ナキモ初期  
ニ於テハ硫磺ノ下劑最モ效アリ牛乳療法ノ如キモ又均用エ  
ル處ナリト述ヘ且ツ其豫防法ニ付テハ我海軍ノ例ヲ引クマ  
穀ノ効用アルヲ説明シタリシ  
又一室内ニ二十ニ三歳ノ少年ニテ左ノ腋前膊ヨリ切斷セシ患  
者アリ是レハ土医ノニシテ手術ニ先者ヲ述ブ依テ本官ニ於  
テハ聊カ不信ヲ起シ本院ハ戰爭前ニ於テ西国医ノ膏ニ  
所ナリシヤヲ問フニ戰爭前ニ於テハ數名ノ西国医アリ目下  
ノ院長土医輩ハ都テ其助手ナリト答テ得タリ終ニ臨  
醫療器械類ヲ一見シタリシニモ見ルニ足ルベキモノナシ外科  
的必需品器械類ヲ具備セザルニシテ折斷器ノ如キモ必  
要ノ切斷刀等ハ皆欠損シ箱内僅カニ數品ヲ遺殘スルモ著  
シク鉄鑄ヲ生シ不用ニ屬ス是レ西兵ヨリノ古領品ニテ要

用ナル者ハ都テ西国軍医携帶巡走セシカ為ナリト云フ  
日本国ニ於テモ医療器械ノ製造今ヤ大ニ進歩ニ歐洲等  
ニ比シテ廉價ニテ得えンベキヲ説キモ同病院長モ既ニ之  
ヲ兼知シ今ヤ日本ニ向テ注文中ニテ云フ  
元來当地ニハ醫藥分業法行ハ普通用業医ノ如キ自家  
ニ於テ調劑法ヲ許サザルハ勿論病院ノ如キモ院内ニハ藥室  
ノ設ケナシ其近傍ニハ藥舖アリ同藥舖ヨリ本院患者  
ニ供給スルモノリト云フ該藥舖モ一見スニ數多ノ藥品ヲ配  
列スルニ戰事台ニテ亂雜ニ整頓スルニ至ラザリシ  
カニテ軍港ニ在ル米國野戰病院  
米國野戰病院ハ元來西國ノ一官衙ナリシルニ設ケテ前  
ニハ赤十字旗ヲ掲揚シテ其位置ヲ示シ入院患者運搬具  
トシテ黒塗ノ箱馬車使用セラルルヲ見ル本院練瓦石ノ

構造ニシテ宏壯ト云フニアラザレモ室内ハ清潔ニシテ敷込ニ塵  
分セシ優々百名内外ノ患者ヲ容ルニ足ルベシ而シテ友徒  
ノ病院ニ比スルバ病室内モ大ニ整頓シ内外科室及傳染病  
室ハ區別セラシ目下九十名ノ入院患者アリ其内最モ多  
キハ外科的患者赤痢腸室扶斯ノ類ニシテ麻疹天疱  
瘡ノ如キモノ或ハ花柳病ニシテ入院スルモノアリシ戰事カ負  
傷者ハ皆麻尼刺野戰病院ニテ本院ニハ一名モアラザリシ但シ  
昨日友徒ノ兵ト鬪爭シテ四名ノ銃創患者ヲ生シ入院シテ  
ルヲ見ル一名ハ右胸第四肋間ヲ貫通セシ死シ一名ハ左胸  
第三肋間ヲ貫カシタレモ不可思議ナルハ危篤ニ陥ラズシテ  
生存シ他三名ハ下肢ノ銃創ニシテ折骨モナクシテ既ニ治  
療ヲ施サシ居リシヲ見ル  
同院軍醫二名アリ看護藥劑士等十餘名之レ從テ醫

療器械及藥品類醫療箱内ノ者ヲ使用セラレる者多シト  
多氏防衛的療法等ノ諸事整頓スルニ及徒病院此テ

ラサリ  
負傷者運搬具ハ褐色ノ帆布製ノ棒二本ヲ用ヒニテ  
携帶ス者ナリ其裏面ニ關節ヲ備ヘタル鐵竿二本ヲ前  
ニ有シ患者運搬際ハ之ヲ張リテ使用ニ供シ不用際ハ  
屈曲包纏シテ携帶ニ便ナラシムルヲ普通ノ運搬具同シ  
患者ノ寢床椅子等ノ如キモ都テ本国ヲ運搬ニ来レ  
者ニテ之ヲ寢床ニ螺旋状ノ鋼細ヲ張り弾力ニ富ミ床脚ハ  
屈伸自在ニシテ使用スルハ之ヲ伸張ニ不用ナルハ屈伸  
ニテ容積ヲ減シ椅子コイルブルノ如キモ皆其ノ座ヲ用ヒ  
輕便ナル者ニテ野戰病院等ニ最モ適當ナリト云フヘシ  
西兵ノ捕虜

カヒテ軍港内ニ數百名ノ西國捕虜アリ士官以上ハ米國保  
護ニ屬シ城郭内ノ一家屋ニ住セシメラレ優待ヲ受ケ居ルガ如  
シト虽反徒ノ手ニテ數百名ノ捕虜ノ状態ヲ一見スル馬  
尼刺市ニテ捕虜ト異リ何レモ面貌憔悴羸瘦骨立ニ  
見以テ死ニ類スル病者ノ觀アラハルニシ或ル者ハ牢舎内  
ニ函閉セラレ或者ハ役務ニ就キ市内ノ掃除等ニ使役セラレ反  
徒ノ兵士之ニテ監視セリ其使役セラレル者モ亦七腕搜シ  
テ皆面貌蒼白ヲ呈シ歩行モ話談ナラズ恐クハ營養其  
當ヲ得サルニ由ル者ノ如シ是レ西國政府ノ施政從來其宜  
ニキテ失シ土民ニ對シ壓制ヲ加エタル結果タルベシト虽モ其狀  
態ヲ見ルハ不憫ニ堪ヘザル者アリ如此有様ニテ數月ヲ出  
デサル間ニ捕虜ハ殆トクニ至ルベシ

呂宋島内地視察報告

八月二十七日午後マニラニ上陸シ通解トシテ田川森太郎  
者ヲ從(馬車ニテ午後五時カールカン停車場ニ達ス

元來呂宋島ニ於ケル藻車ハコニラホトンドヨリリンガエ  
頭ダグバレニ通ズルモノナレドモ目下カールカンヨリバイヤンバン

迄ニ通ス(ダグパンヲ距ル陸路二十哩)発車時刻ハカールカン  
ヨリ發スル者ハ午前六時午後零時五分及五時三拾五分ノ

三回ニシテバイヤンバンヲ發スルモノモ亦同シ而シテ平時マニラヨリ  
ダグパン迄九時間ヲ要スト云フ

但シ最終列車ハカールカンドヲ終ラヌトス

藻車線路ハ單線狹軌ニシテ其幅一メートルハ〇客車ハ

長サ四メートル五拾幅ニメートルニシテ一等客車ハ定員九名ヲ  
啗セシムルニ足ルノ藤製腰掛アリ貨車ハ大小二種アリ小貨車



ト同大ニテ車体ノ重量四千七百六拾五キロ積載量六千〇九拾六キロナリ大ニ長クニ倍シ車体ノ重量八千八百キロ積載量壹千五百キロナリト

午後五時四十分カルカニ発車今八時五十分サレエルナドニ下車ス  
カルカヨリカンフエルナド迄距離大拾壹キロメートルニシテ上等  
賃金壹山八拾七錢五厘ナリ鐵道線路圖及発車時間表ノ  
末尾ニ附ス途中ノ景況ハ去ル三十年一月吉野艦長ヨリノ報告ト  
異ナラズ

沿道ハ水田相接シ間ニ乾田ヲ交ヘ恰モ我東海道列車ニ乘リテ  
濃尾地方ヲ通過スルノ感アリ唯ガ水流ノ多キ其水ノ多量ナルト  
竹藪ノ所々ニ叢生スルハ到底吾邦ニ其比ヲ見サル處ナリ  
リニアルナドハバンガ洲ノ一村ニシテ人口壹万貳千ヲ有シ戦爭  
ノ當時西國ノ將モ少ク少將ノ駐在セシ所ナリ大寺院學校砂

糖製造所等稍見ルベキモノアリト雖モ寂寥ナリ村中一ノ旅  
舎ナシ官等ノ一行ハ村長ノ宅ニ宿ス

村長ハ名ヲアントニヲコンスヘイト稱シ數年前ヨリ其職ニ在  
リ初メヨリ反徒ニ與ミ去ル明治二十九年西國政府ノ為メニ  
六ヶ月餘牢獄ニ投セラレタリト云フ

二十八日午前七時二十五分馬車ニラカンフエルナドヲ發シバエロルニ  
向テ道路ハ幅四間ニシテ平坦其過半ハ水田ノ間ヲ通ズ七  
時五十分バエロルニ着スバエロルハサレエルナドノ西五キロメートル計  
リニアリバンガ州ノ政廳ノアリシ處ニシテ人口壹萬四千  
アリ旧政廳、學校及人家ノ大半ハ過ル三月西國兵ノ燒ク  
所トナリ寂莫ヲ極ム

午前九時二十分同處ヲ發シ十時三十分カンフエルナドヨリ乗車今日午  
後三時三十分カルカニ停車場ニ着シラボシヲ經テマニラニ歸ル

軍事上ノ視察

一 反徒ハトンドヨリカールカニ迄ノ間ニ於テ道傍所々ノ家屋ニ

舎營セリ舎營ニハ軒頭反徒ノ旗ヲ擧ク

一 エラボンホニ反徒ノ少將駐在セリヨリ近郊北部ノ本部ニ

テ兵營アリ而シテ寺院ノ一部ヲ以テ病院ニ充テアリ目

下刀負傷兵五人入院セリ

一 反徒ハ連リニ地方ノ整理ヲ務ムル者ノ如シ現ニ士官等ト

同漁車ニテバンバガ州ノ司令官トシテカビテヨリ派遣セ

ラレタル反徒ノ少將トリス、マシエガドナルモノサンフエルナレド

ヨリ來レリ又バエロルニハ西三日中ニバンバガ州ノ知事未

任スル筈ナリト云フ又同車セル一名ノ少佐ハスピックサンバールス

州ノ知事トシテ赴任ノ途次ナリト云フ

一 バンバガ州附近 其ダ平穩ナリサンフエルナレドバエロル共ニ少數ノ

守備兵ヲ殘シテ他皆歸休セリ即チサンフエルナレドニ於テハ現在

守備兵百名モ新司令官未任ニ付檢閲ノ為メ召集中

ナリバエロルニ於テ人九拾六人ノ守備兵アリテ大佐一名少佐一名

大尉一名中尉二名アリ寺院ヲ以テ舎營ニ充ツ

一 バンバガ州 全体ノ反徒ノ數ハ參千餘名アリ皆小銃ヲ有ス

其志千餘ハモル他ハコレニトナリ此等皆西軍ヨリ分

捕セルモノナリト云フ

一 サンフエルナレド 於ケル西班牙ノ捕虜ハ士官兵拾名率八拾名

アリ皆北方ニテ捕ヘラレ此地ニ送ラレタルモノナリ

士官ハ自由ニ居住ヲ許シ率ハ馭者又ハ人丈トシテ使役セ

ラルト雖モ皆其取扱寛ナルヲ悦ビ居ルカ如シ僧侶ハ六名アリ

壹室ニ監禁シ番兵ヲ附シアリ

一 反徒ハ守備兵及歸休兵ノニアリ豫テ其集合点ヲ定メ一部

隊ヲ五名トシ各村ヨリ其大小ニ從ヒ一隊或ハ二三隊ヲ出シ  
一週間交代ヲ以テ歸休スルト云フ  
一反徒ハ給料ナクシテ被服ハ自辦ナリ唯々毎月五錢ノ煙草  
料ヲ給ス

一北部反徒ノ西國ノ捕虜ヲ遇スルヤ頗ル寛大ナリ曩日西  
國政府ノ反徒ヲ遇スル惨酷ノ甚クシカリテ頗ル怪訝堪不  
而シテ其理由ヲ問ハバ或ハ曰ク前年日清戦争ノ起ルヤ日  
本ノ清國捕虜ヲ遇スル頗ル寛大ヲ極メ反徒ハ新聞紙上  
其事ヲ知ルヤ日本ノ義侠ヲ稱スルト同時ニ苟モ其獨立  
ヲ欲スレバ又其舉ニ敬フヲ以テ字内ノ同情ヲ買ハル可カ  
ラガレテ覺知シ此田ノ舉ニ出テタルナリト云ハ然ラズ  
一サンフエルナド及バコル村長等ノ語所ニミシバ米國ハコラ市  
及其周圍ニキヤオートル以内ヲ支配スルニ止マリ其以外全島ハ

一舉テ反徒ノ自治ニ任スル事ニ米反間ニ約定成レリト大満足  
セルガ如シ然レドモ若シ再ビ西國へ還付スルガ如キコトアルハ土人  
ハ飽クマデモ反抗スベト稱セリ

一獨逸軍艦來リ西國僧侶ヲ助ケ又西國ノ為ナニスルカ如  
キ形跡アルモ之レ自利ノ為ナニスルモノニシテ決シテ西國ヲ助ケ  
ルノ衷心アルニアラガレバ意トスルニ足ラズト稱スルモノヲ多シ

一英ニ米ニ對スル感情ハ惡シカラガレカ如シ  
一日本ニ對シテハ最モ好意ヲ表シ小官等一行ニ對シテモ殷懃  
頗ル勤ム之レ全人種ト信シ且ツ日本ハ戰勝國尤ニ感激セシ  
ニヨルナラン

右報告也

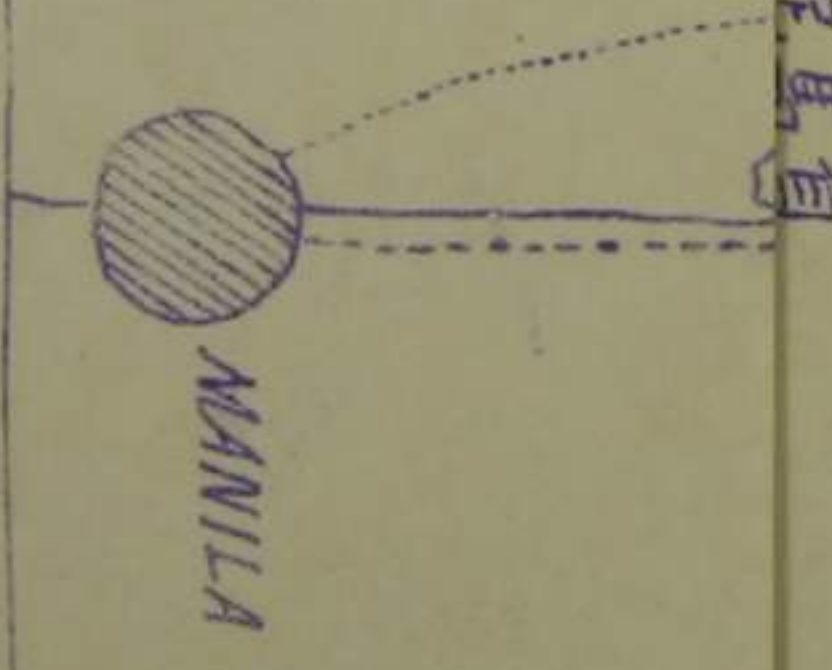
明治三十一年九月七日

海軍大尉 中野直枝  
原篤敬

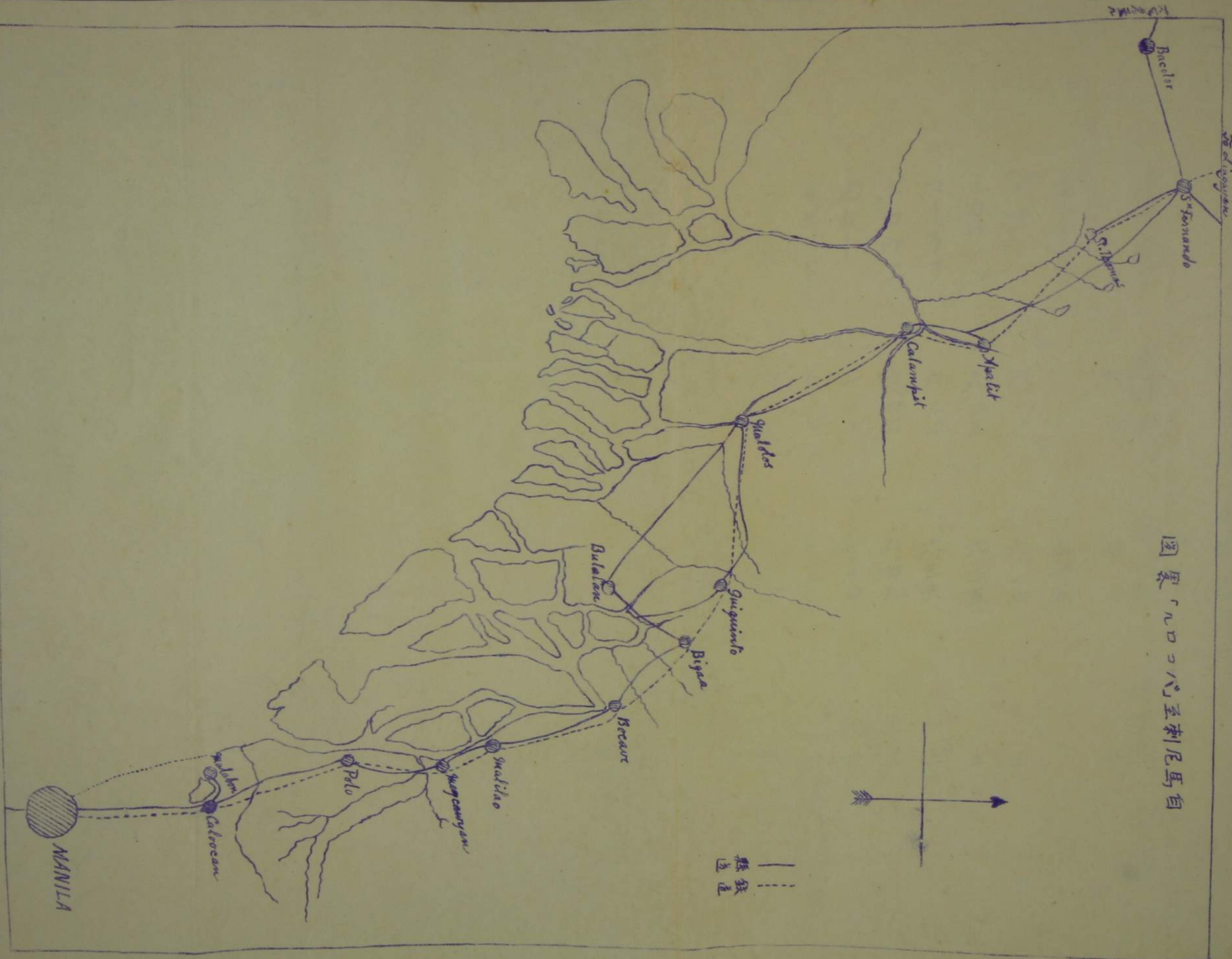


*De Lingayen*  
S<sup>r</sup> Fernando

國庫ルロコバ多刺尺馬自



自馬尼拉至巴拿馬圖



汽車発着時間表

停車場名	着時刻 時分	発時刻 時分	停車時 分	記事
カルーカン	六、一	五、四五	三	
ボロ	六、二三	六、一四	二	
ナカワヤシ	六、三四	六、二五	二	
マリヲヲ	六、四六	六、三六	三	
ボカウエ	七、〇〇	六、四九	四	
ビガ	七、一一	七、〇四	一	
ギギント	七、三九	七、二二	一	此処ニテカルカン行 キヲト行キ合ノ
マロロス	八、〇三	七、四四	五	
カルンピット		八、〇六	三	

アパリット	八一五	八一八	三
サントコニス	八三七	八四〇	三
サンフェルナンド	八四九		
歸路ハビガリーニラバイヤレバン行ノ汽車ト行キ合ヒタリ			

馬庄刺府落城後衛生視察ニ関スル報告  
 軍醫少監 鈴木重治

明治三十一年八月十三日馬庄刺府ハ米國陸海軍聯合猛  
 攻ニ遭ヒ全ク米國ノ手ニ落チタル後凡ソ一周間ヲ經テ上陸シ市内  
 ノ景況ヲ視察スルニ市街家屋ハ全ク安全ニシテ一ノ砲弾或ハ火  
 ヲ被リタル所ナシ且市ノ攻撃ニ際シ一時閉店シタル商店モ今先  
 半テ開店シ商業ハ亦以テ一層盛多トナリ且テ錫地ノ  
 昨ヲ考テ市街ノ者亦一ツヲ警戒シタル羅甸人種ノ西國兵ハ既ニ  
 網色ノ服装ヲナシタルアングロサクソン人種タル米國兵ニ交換セラレ  
 商店ノ方面ハ片言ナカラ英語ヲ用ラントシ旅店及料理店ハ米  
 國風ニ化シテ然仕オシ且漢ノ通商ヲ重キ或ハ日英漢ヲ話ス者  
 了形勢更ニ一變アリ尚ホ今後一年間ヲ経テハハ英語ノ不自  
 由ヲ知ラサルニ至ルベシ

一米國兵

戰勝國タル米國兵ノ馬庄刺府ニ屯在る者總數一萬  
一二年一ナルヘシト云ヒテ大部隊ハ城郭外ヲテ方面ヨリ  
正スルタトシテ方面ニ屯在シ一ハ市内ニ駐備ス者リ一ハ決所ノ  
廣地ニ於テ時ニ兵式ヲ訓練シ以テ威力ヲ示スリ其服裝  
ハ赤天竺ニ係ラス赤布以上ハ紺色ノ羅紗服ヲ纏ヒ肩章ヲ  
附シ或ハ赤襦袢色ノリボン等ヲ着スルアリ軍醫官及軍部下  
ハ右左腕ニ赤十字章ヲ附着シテ區別ス而シテ少尉以下ハ膚  
衣ノ上ニ紺ヲシテリボン等ヲ着スルアリ軍醫官及軍部下  
ノ官服ヲ著スル帽子ハ赤布以上ヨリ下士身ニ至ルニ茶褐色  
ニシテ羅紗製向一ノコックトシテ披リ襟裾ハ殊ニ逞クシテ身長  
六尺以上モアルハキ北少ナカラズ威儀堂々タリ然レテ米國陸兵  
他ヨリ一見スルハ馬庄刺ノ赤天竺アリテハ披襟厚キニシテ

武

一反徒

熱度ニ若ノルカ如キ觀アリ或ハ被服ハ遠征ノ為メ頗ル不  
潔トナリ外見上決シテ美素ナリト云フ能ハス  
一反徒ハ銃器ヲ携ヘ武装ニ充テ此ニ萬口劍類ヲ携ヘル者  
ヲ以テ時ニ多慮ナク萬以上ト云フ而シテ馬庄刺市外數千  
里ノ地ハ皆一反徒ヲ以テ充テサレ殊ニ馬羅魯方面ニシテ其數モ  
多キカ如シ而シテ各方面ニ師團長或ハ旅團長アリテ之ヲ統  
轄シ一反徒ノ大統領者軍務總督タルエミリヲ、アギナルトハ者  
カニテ附近ノバコルト云フ處ニ大卒者ヲ設ケ要路ノ百官ヲ  
以テ萬機ヲ掌トリ衆生之ニ歸シ以テ大權カヲ振リ  
一反徒ハ作裝ハ西班牙兵ニ均シキ紙筒、洋服ヲ着シ赤布  
以上ハ肩胛ニ星章ヲ附シ其衣ト赤布色ニシテ赤布ヲ正  
別ニ或ハ星章ヲ五色ニ正ルコト歩騎、砲工士及、票章



ト者ヲ帽ハカシラシ製ハハツトシテ赤有以上凡ソ三寸方圓  
ノ赤羅紗ニ三角孔金銀色地ニ反徒ノ証章ヲ彫刻  
シタル者ヲ帽ノ右側ニ附着シテ右明テラシメ下士以下ハ  
赤記ニ章ヲナシ  
反徒ノ服装ニ之來執帶地方ニ適シ非見上モ亦ノ清潔  
ニシテ決シテ不潔ト云フハカラス又モ服装ハ日雨ニモ係ラ  
ズ正々タルモノナク全軍同一ニシテ精裁裁頓ナリ然レ下  
士以下ニハ洗足ナル共多クシトス  
軍官官及看役ハ左上膊ニ赤十字章ヲ附リ反徒ノ軍  
隊ニアツテハ各隊隊ニ二名及五名ノ軍官官アリ隊附  
トナリテ戰陣線ニ依リ監視ニハ軍官官アリ元上ニハ軍医  
官ガアリテ軍醫官ヲ掌ルル者ハ右國ノ軍隊ニ異ナラ  
ト云フ

從來土民間ニハ必學少カラズ然ル所以主以シテ地ノ守衛ヲ修  
法學ニ或ハ文學ヲ修ムルニモ政府ニ奉仕スルハ西班牙官吏助  
助役タルニ多クシテ容易ニ官位ニ昇進スル決ス然レトモ官  
才ハ民間ニ開業スルニ收入少カラズ以テ醫學ヲ修ムル共多クシ  
ト云フ各地ニアツテ醫學ヲ修ムルニ必ス麻仁刺大學ニ由ラザルハ  
ハ本校ニ行フ事業生モ力意カ花モハ歐洲ニ航シテ獨或ハ  
西班牙ニ遊ビ更ニ以テ醫學ヲ研修シテ醫學士ノ稱得ラハ  
明レ親シ民間ニ入ル者少ナカラストシテ醫學士ニ稱セバ夫アリ  
且ニ反徒ニ法律ヲ修ムルハ西班牙政府ニ疑ヒ昨年十二月  
ニテハ馬佐刺ノ國ニ於テ統殺刑ニ交ハラシムル有者ナリ  
ト云フハカシラシ製ハハツトシテ赤有以上凡ソ三寸方圓  
ノ赤羅紗ニ三角孔金銀色地ニ反徒ノ証章ヲ彫刻  
シタル者ヲ帽ノ右側ニ附着シテ右明テラシメ下士以下ハ  
赤記ニ章ヲナシ  
反徒ノ服装ニ之來執帶地方ニ適シ非見上モ亦ノ清潔  
ニシテ決シテ不潔ト云フハカラス又モ服装ハ日雨ニモ係ラ  
ズ正々タルモノナク全軍同一ニシテ精裁裁頓ナリ然レ下  
士以下ニハ洗足ナル共多クシトス  
軍官官及看役ハ左上膊ニ赤十字章ヲ附リ反徒ノ軍  
隊ニアツテハ各隊隊ニ二名及五名ノ軍官官アリ隊附  
トナリテ戰陣線ニ依リ監視ニハ軍官官アリ元上ニハ軍医  
官ガアリテ軍醫官ヲ掌ルル者ハ右國ノ軍隊ニ異ナラ  
ト云フ

馬庄利漢定内市をヤ今ノ米國権カ下ニリト確迄米  
國係ヨリシマ反徒モ亦強カヲ振ヒモ有以上ニ武裝シテ市街  
ヲ横リハ但シ兵卒ニ米國兵ト衝突スルノ恐ヨリ或ハ捕虜ト  
シテ西國兵ヲ若シカルキ兵卒アヤシクハ馬庄刺滅シテ反徒ヲ  
以テ制ラズ武裝ヲ解クニテラカシハ馬庄刺滅シテ入ルヲ許ス  
人反徒ニ言尼刺府及者州知事ヲ殺テ行政事務  
ヲ操ラシメハノ米國ト對ス

反徒及土氏一殺ノ名事ハ米穀ヲ主在ハリ米價ハ日  
岸米ト異ナリ米穀ハニシテ粘膠質ニシテ味カクシ米ニ此  
美味有シ而シテ蒸沸スルニ時際シタル白米ヲ土産ニ入レ  
適宜ノ水ヲ加シ煮沸シタルハ質良ニシタル牙且ニ堅ク或ハ  
後金ノ土産ニ入ルニホシ一家團案ニ指ヲ以テ食ヲ例トス  
名物ニ魚類種多ク味多クモシ或ハ猪豚牛肉ヲ用テ之米者

地ニ楚米穀ニ之ヲ用ルニ少クシ得ニ一殺ニハナシ密柑  
乳ノ米物ニ富ミ食味ニ宜シ之ヲ用テ例ニシテ以テ種物ノ  
酸ヲ補充充テルニ或ハ反徒ノ兵舎内ニ食事ニ際シ各  
々隊毎ニ米飯ヲ蒸物ニ與リ少量ノ魚類或ハ肉類ノ副食  
物ト共ニ之ヲ上ノ中央ニ備フヤ兵卒ニ之ヲ各日ノ食後以  
テ之ヲ直接ニ手拾フハノ宜シ規律一定ニシタルハ  
ニ歩食時ニ後シテ之ヲ食後直接ニ食サシテ之ヲサリテ味食  
ハ都ニ手拾ヲ用ルニシテ後トシタルハ各隊上及テ團團ニハ  
米粒散見シテ宛是根根ヲ以テ食下當テテテ大統  
領ヲ訪問シテ其旨ヲ答ニ於テ書意合テ答マシメタルハカヒテ  
軍法ニ於テ反徒ノ武裝ニ於テ内供知事(或ハ兵團)各志  
ヲ受テテ其旨ヲ詳述シテ捕子ニ生シタル食上ノ食  
料ハイテ之ヲ備ヘ中央ニ米飯ヲ蒸製シタルハ大兵士細色



候ヲ距ハス尤モカレテ下港ニ於ル捕虜ノ如ク聞逃スル状態ヲ  
ラ下捕虜モ此方捕虜トシテ名ヲナシタル兵隊伏候ハ俄ニ定見  
米食ヲ信セラルルニ至リシヲ以テ此方營軍ヲ切ニ面々モ哀  
ムル事ナラシキ事且ツ捕虜ノ報某ハ我軍ヲ用ヒタル傷地リ  
ミラ石原ナル共多シ又捕虜ノ住居ニシテラハ寺院内ヲ一見  
ミ岩積町ハ廣大ナリ捕虜モ共余ニ道ニカキ捕送シテラス  
殊ニ寺院内ニ數百名屯集スル中一様ノ臭氣ヲ放チ不  
潔ナリ極ム但シ責以上ノ捕虜ハ住持ヲシテ日宅或ハ宿舎  
任セテ住居セシメラシ市内ありノ際ハ云々許セザルル由ナリ  
ラコトヲ然ルニ致候ニ付此際ニシテ我隊共々米國士官ニ於ケル  
ヨリハ却テ外見トアリ共多シ名ヲナシテ利根居ニ於ケル  
多ク西國捕虜士官ノ喚名スル共見ル又一方ニ米國士官  
ノ喚飯スル下平定村司日ヲ信サレハ滋味方互ニ信同シテ一

食糧ニ集合スルカ如ク米國人ノ度星寛大ナリ表示シ讚

歎セサルヲ得サルノ事ナリ

一反傷者

本年八月十三日馬庄利府捕虜ノ係米國陸兵ノ死傷者ハ第一  
旅團ニ於テ兵卒戦死共四名負傷共四十八名手好負傷者ノ  
死後シレル者二名士官負傷共二人戦死者ナシ第二旅團ニ  
於テハ兵卒戦死共二名傷共二名七名手好傷共二名死シタル  
者一人士官ノ負傷二人アリト云フ又本年七月二十一日八月  
六日トヨリ百三十四日ノ戦事ニシテ米國ノ戦死者士官四名兵士十三  
名負傷共五十七名アリ之ヲ合算スル時ハ全團馬庄利攻撃  
ニ於テ米國ノ戦死者士官六名負傷者百四十名死傷合  
計僅々百六十六人ニ止リナリ

又徳ノ死傷者ハ統計ナカレ故ニ詳細ハ別紙ニ記

此部兵共ニ先ツ二百名ヲラント云フ然レ此カレテ并ニ馬羅兵  
等ニアル及徒ノ病院内ニ多数ノ負傷兵等アラカルル如ク  
以テテ同フニ及徒ノ兵ハ義勇兵ニシテ自由ヲ得ル權アリ  
戦地ニ入りテ負傷スルカ或ハ狂病ニ罹ルハハリ定ニ帰リ  
得ルモ先モノ多キカ病ノ病後自ニ癒者少シト云フ是  
真ニ近キカ如シ  
敗北者タル西班牙陸兵ノ死傷者ニ五テハ余ク全クお然ク  
又馬左刺布一箇處ノ隊ニラツテ米國艦隊ノ放テクル一砲  
彈ニ中リ四十名ヲ殺シテ十名ヲ負傷セシメ以テ今年ニ於テ西兵ノ  
死傷多量ナリシヲ推知スルニ一ト米國士官ノ云フ所ナリ  
トモ信用スルニ足ラザリ然レは月十名ノ於テ海軍砲隊  
ノ集中セシマラテ一堡壘中ニ二十八名ノ死傷者遺シタルハ  
事一莫トスル事ニシテモ今四ノ戦者ニ於テ西國海軍

ノ死傷ヲ除キ陸兵ノ死傷者ハ米國及及徒ノ死傷者ニ二  
倍ト見做シ大ニ差ナカラシカ然レは西兵ノ死傷者合七百二十  
二人トナルヘシ  
何レノ國タルヤ同ハス戦争中或ハ吾等ニ於テ猛烈ナル惡  
疫流行シテ死者多シ生靈ヲ奪ヒ病疫死之者ハ戦死者ノ數  
倍ニ至ルハ例トス所ニシテ遠キルクリヤ昔佛戰多ク近キ  
余日清事件ニ興ミテ知ルコトアリ本年ノ米西事件ニ於テ  
改馬崎ノ疫トハ先ニ黃熱流行シ之カガノ兩國ノ兵共ニ非常  
ニ苦シノラシク同クト雖モ當以テ黄熱鳴ニ於テハ現ニ熱帯  
地ニシテ傳染病毒ノ蔓延ニ殊ニ高クシト雖モ未タ黃  
熱死病席列狂病ノ如キ劇烈ナル傳染病發生スルニ至  
ラス赤痢麻拉ト亞麻疹ノ如キ稍増盛セルルニ  
シテ事西軍一及及徒軍隊ニ滿生上ハ先ツ良成績ナ

一病院

リト云ハシ然氏尚ホ々及公ケ月百内ニ以テ病症ノミニテモ  
西軍隊ヨリ多ク死亡セリ生々ニ至ルコト或ハ公トシテ  
ナル悉殺ヲ輸入者延セシムルヤモ亦知之カラサルナリ

馬庄刺府ニ於ル米國陸軍野戦病院ヲ一見ス向院藏像  
、西側西形ヲ橋ノ附近ニシテ舊西國陸軍病院ヲ築用  
シタル者ナリ楨造ハ木製ト平家ニシテ廣大ナル病室數棟  
アリ醫局藥劑局留宿舎看護室厨務等器具備アリ  
院長ハ年留心チヤリス氏ニシテ以下二十二人ハ軍医藥劑  
士及數多ク看護アリ患共ノ治療ニ從事ス少少ノ因院ヲ  
訪問セシハ偶々患共ノ術ノ修ニシテハ一付頓脱傷ノ自術  
ハ右膝関節ノ骨通脱創ニシテ關節炎ヲ起シタルヲ排  
世コト聞キ拙眼セシムルモノニシテ皮也執刀セリ他ノ軍医ハ

ハ補助ナリシ治療器械ハ野戦病院ナルヲ以テ十分整頓  
セリト云ヒ能ハサルモ手術用切刃刀類ハ一旦熱氣消毒ヲ  
加ハタルモノ用ヒテ消毒法ニ注意スル但シ手術室ニ不潔ニテ  
床板上ニ塵埃及脂土ヲ附着シタル患共トスル所ナリ  
傷多クアハル中匠探取用トシテ脱脂綿紗ヲ凡ソ式  
鋼袋大ノ丸ガ切り敷ヲ重クタル患共探シテ糸刺用ニ製  
シタルモノアリテ水中ニ投スルハ直ニ腐蝕シテ凡ソ寸許ハ  
厚サニナルモノアリシ拙眼多ク銃創面ニ此ルキ吸収力強キ  
綿紗ヲ使用スル有効ナリト云ヒ又刺木中ニ兵コトハ中ハ  
寸許鋼網アリ(用ニ至鋼網ハ如ク)連続板ヲ用フハ如キ  
更ニ及後継骨折傷ニ殊ニ有効ナルニシ  
米國兵負傷者ハ都ラ本院ニ收容セラレん者ナレ傷者數  
ハ僅ニ七十名内外ナリシ其内ニ胸部ヲ貫通セリ或ハ腸骨

窩面即頭部ホリ炭カレテ快方ニ向ヒツアリシ奇傷少ナカラ  
又銃剣志ヲミテ全治シ極痕ヲ見ルモ一モ一モ銃丸  
ハ細クナルハ故ニ怪モ種痘痕ヲ見ルカハ小瓶ミシテ小  
瓶短銃剣ニテラハルヲキヤノ痕ヲ見セリ  
痲室ハ木製ノ平家ニシテお棟ヲレバ五十年オ建案  
ミシテ腐朽シタル此アリ殊ニ戦事後ニシテ修理法充分ニ  
行ハス概ニテ不慮ナリ考時入院患者凡ソ二百名アリ毎室  
五十名久ヲ收容シ兩側ニ配列セシメリ右患者ノ病床及  
當左留良用ノ椅子ヲ取ホハカビテニ於ル米國野戰病院  
備付ノモノト均シク本國ヨリ携帶セシモノニシテ痲室ニ  
螺旋狀ノ彈力アル鋼線ヲ張りニ床脚ハ自由ニ伸縮  
シ身ノ脚及椅子ノ如クモ亦進リ退極スルハ容易ニ成  
ルルヲ得テ輕便ナリトス

在院患者ノ病床ヲ換列スルハ銃剣患者最モ多シ其  
他赤痢痲痘亞腸室核等之ニ至キハシテ井テ痲疹  
脊推膜炎花柳ノ病ホモアリ  
本亦白也ヲ訪問セシ時或醫者ハ中日英米五國同  
盟ノ院ニ成立シタルヤヲ説クモノアリ殊ニ熱心ニ待遇シ  
レタルニ由リ同院ヲ看スルニ當リ醫者ハ一ニテ同伴シ  
テ本院ヲ鑑覽セシノ款付シテ満足セシメタリ  
馬屋刺階階少バシリ河ノ傍ニアリシ西國野戰  
病院ヲ訪問セシモ同院ハ院ニ他ニ移轉セシメラレ米國陸  
軍兵學士化シキリ降伏後ハ西國病院ノ状況ヲ視  
察スルニ由リシハ甚ニ感トスルニ由リ尤モ同院ニアリシ員  
傷兵ハ都テ市内ニ四ヶ所ノ寺院ニ設ケラレタル偵察院  
梅村ニシメラレタリト云フ又豫ニ城郭内ニシテ西國市立

病院は依然トシテ病院之普通外未恙及入院患者、編輯スルヲ見ル  
右報告也  
明治三十二年七月

馬雅金市湖生視察之聞ル報告

海軍軍醫少監 鈴木重治

明治卅一年八月廿三日反徒之根據地タル馬羅金之旅行之狀況ヲ  
視察スルニ同地ハ馬尼刺市ハ亦五六哩ヲ距ル一市街ニシテ戰  
争中ニラツテハ亦不利トシテヨリカカシニ輕便鉄道ヲ布設  
アリシモ戰争中反徒ノ為メ同鉄道破壊セラレタルヲ見ル但シ目下  
カカシヨリ馬羅金ヲ經テ内地ニ通ズル鉄道ノ復アリ反  
徒ノ手ニ屬スル馬尼刺市ヨリ馬羅金ト馬車ニテ旅行シ  
テ途中ニ是等ノ胸壁ヲ築カレシ所アリ一般ノ是派匠馬車  
ノ通リ困難ニシテ步行セシムルハ六サトカラス馬尼刺市外ハ  
一二ノ更ヨリ踏傷ノ氏家ニ反徒ノ軍隊ヲ武裝ニタル數百  
ノ反徒共所ニシテ余ヲ被テ集會ニ致シ胸壁復設セラレシ交ハ  
哨兵アリテ通行人ヲ監視スルヨリカカシニ到ルハ日武ノ兵營アリ



五百ノ反徒之據ルアリ曰不ヲ過キト馬路免ニ遊スル該地ニ當方面  
於ル反徒根柢地ニテ數多ノ反徒決所ニ營舎ヲ設ケ屯集シテ市  
内ヲ警戒ス爰ニ反徒ノ師團長ト云キ一將官アリ部下統領  
アリト云フ而シテ同地ニアル一兵舎ニ就テ反徒ノ將校ニ面會シテ各兵  
ノ形勢軍ニ百營タル述ニ該地病院ヲ一覽セシメテ然ル該地  
亦小容易ニ承諾シ病院ノ所ニ地ヲ示シ依テ同地ニ到リ一覽スルニ  
該院ハ一寺院ヲ正當ニ假設シタル兵ニシテ病床僅ニ十四五基アリ  
然レモ其ノ室床ニシテ五六名ノ負傷者アリシ、其ノ内腰部ニ銃創ヲ  
受タル一士官アリシカ刻而殆ト治シテ歩行セリ見ル又ニ其ノ所ニ銃創  
ヲ受タル一若兵アリ此モ殆ト治癒セリ外ニ一ノ赤傷者アリ同  
右肩脚關節ニ銃創ヲ負ル兵ニシテ多量ノ排膿アリ病床ニ呻  
吟ス所探テ方治シテ一編帯ノ巻纏法ヲ先ツ負傷者ヲ診タリ  
床ニ班テ兵ノ其ト同ク孫個ヲ敷キタル木製ノ寝蓆ニシテ患者

用キルニ病室内ニ其氣流通完全ナリト雖モ概シテ不潔ニテ  
懸頓アリト云フ可カラス

負傷者用ヒラレタル編帯ノ如キモ汗深ニテ綿紗棉花ヲ使用セ  
少量ニ過キ防腐的療法モ完全ニ其ト云ニ難シ或藥品器械  
類ニアツテモ其數多クカラス且ツ外科醫研療法行ハス著トク  
蝕蝕シタルヲ見ル

同院ニ醫員三名アリ在官、同院ヲ訪問シタルハ、醫長ハ不在  
ニシテ二名、看護員アリシカ彼ハ紳士然タル服装ヲ為スニ  
ラス、普通土民、野都ニ往テ穿テ恰モ小使然タル容貌  
ナリシ

馬路馬市街ハ殆ト土人家屋ヲ成リ木製或ハ石造、西洋  
刑家屋モ決所、故土不熱シト云キ支那人、北歐州人、同地ニ住  
居スルモノアルヲ見サリシ又同市内ニ毎朝市場開設セラレ

近郊ヨリ種々ノ畜産ヲ集合シテ販賣スモノニ鶏、豚肉、  
魚、乳、野菜、果実、乳多トス又戦争中馬、鹿、冬ハ今反後、  
有ニ帰シ馬、鹿、利府ト交通ヲ断シ各品、乳、肉、府ニ輸送  
セラル、ヲ禁セラレタリシモ馬、鹿、利府、以、果、作、々、之、交通、ヲ、商  
キ、各、品、モ、同、地、ヲ、馬、鹿、利、向、テ、運、送、セ、ラ、ル、モ、サ、ア、カ、ラ、エ、ト  
云フ

明治三十一年八月

會計佐興ニ関スル事項

主計少監 細井彌三郎報告

八月の翌日、後零時半、バール、反、徒、本、管、ニ、達、ス、小、官、最、初、ヲ、反  
徒、大、統、領、ニ、面、會、ス、ル、ヨリ、七、黨、大、藏、長、官、ニ、面、談、ス、ル、ヲ、以、テ、シ、本  
管、到、リ、同、々、大、統、領、ニ、微、恙、ヲ、示、ス、ル、コト、自、宅、ニ、于、テ、大、藏、長  
官、他、ノ、主、務、衛、門、ニ、作、ト、事、ナ、ル、ヨリ、本、管、附、別、館、大、尉、リ、テ、系  
同、々、レ、本、管、ヲ、離、ル、一、町、許、リ、テ、該、衛、門、ニ、至、ル、然、ル、ニ、大、藏、長、官、*Mullins*  
*Shiras* 氏、當、時、其、自、宅、在、地、ニ、カ、シ、ラ、ン、シ、ム、コ、ト、ホ、シ、ニ、違、者、中、ニ、シ、テ、面、談  
ス、ル、ヲ、得、ス、且、當、衛、門、ニ、成、リ、居、ル、モ、ハ、西、謂、房、寮、ノ、ミ、シ、テ、大、尉、ノ、財、務、ニ、通  
曉、ス、ル、モ、之、等、到、官、ノ、後、主、計、少、監、ノ、作、務、感、充、分、ノ、報、告、ヲ、得、ル、缺、ハ、ス、依  
テ、先、ノ、該、衛、門、ノ、性、質、ヲ、以、テ、シ、尤、モ、先、任、シ、キ、者、若、ク、ハ、財、政、ト、種、食  
取、扱、ノ、取、リ、ト、且、同、ノ、財、務、個、領、ニ、大、藏、長、官、ト、他、ノ、二、名、之、ヲ、換、替、  
ス、ル、者、リ、テ、各、等、ハ、只、單、ニ、會、計、由、旋、ニ、任、事、ス、ル、ニ、加、テ、其、間、ニ、應、入

此後のことは、根に依り其會計、固旋に如何ん職務にカテ、此の答、向  
御奉和の革命政府(及徒自稱)基礎未ク充分ナラスにテ、會計  
ノハ、其帳簿ヲ整理スル等、必要ヲ生ス故ニ、余等此處ニ於テ、利ニ會  
計、後人トシテ、在ルヲナス、會計上ノ雜用ヲ整理スルニ、過キスト然ラハ  
其命以テ、收入ニ就キテも充分ニ在ルハ、然ルカ若クハ、元來革命政  
府ニテ、合衆國ト雖、且、其條約ヲ結ス、在國ニ向テ、公然獨立、宣テ、  
カレ、租稅、徵收、一回、七行、スルニ、收入ヲ稱ス、キモ、其、然ルカ、  
此、何、コレ、テ、支、レ、ヤ、若クハ、右、比、律、賓、人、身、財、ニ、テ、支、レ、  
依、テ、其、財、方、法、及、其、分、配、方、法、同、レ、比、賓、領、ヲ、得、ル、為、キ、革命政府、收  
支、ニ、就、テ、モ、ニ、三、ノ、質、問、ヲ、試、シ、モ、余、等、之、ヲ、熟、知、セ、ト、若クハ、依、テ、財、務  
ノ、質、問、之、ヲ、止、シ、糧、食、ニ、於、テ、之、ヲ、得、ル、カ、同、ク、若クハ、同、ク、所、ニ、ヨ、レ、  
日、揮、人、ニ、米、ト、少、許、ノ、魚、肉、若クハ、野、菜、ヲ、常、食、ト、ス、ル、ト、存、島、人、モ、自、米、ト、米、肉  
ヲ、レ、ハ、レ、テ、是、ト、ル、故、ニ、自、米、之、ヲ、香、港、ニ、仰、テ、若クハ、高、者、身、財、ヲ、持、テ、生、牛

ハ、存、島、ニ、テ、之、ヲ、得、ル、易、シ、現、或、富、者、多、シ、ル、ト、一、回、自、米、三、百、俵、積、ル、ヲ、身  
財、ニ、シ、ル、ト、アリ、其、他、往、テ、右、等、ト、シ、然、ル、ト、全、島、五、年、所、存、財、ヲ、見、ル、余、等  
ノ、承、知、ス、ル、事、ニ、テ、香、港、ヨリ、自、米、ヲ、得、ル、事、モ、一、回、アリ、  
ハ、總、テ、香、港、ノ、糧、食、ニ、テ、右、等、ト、シ、之、同、會、話、ヲ、知、ス、ル、故、ニ、  
此、ニ、對、テ、余、等、ノ、耕、作、ノ、法、ハ、右、等、ノ、糧、食、ニ、テ、ハ、コ、ラ、ス、ト、云、フ、意、  
味、ヲ、シ、テ、  
此、ノ、故、ニ、詳、ク、考、察、シ、ル、モ、別、ニ、條、條、ノ、法、ハ、  
所、(香、港、ノ、用、)ニ、テ、自、米、ヲ、炊、キ、之、ヲ、煮、ク、ル、肉、ヲ、  
何、ト、進、キ、テ、來、テ、隨、意、ニ、食、ス、ル、整、然、ク、ル、規、律、ヲ、  
人、對、ス、ル、分、量、モ、多、ク、ル、ヤ、曰、ク、右、日、自、米、四、合、  
廣、異、ル、ル、故、ニ、制、限、ヲ、シ、ト、云、フ、可、ク、  
等、ニ、テ、革命政府、貨幣、ノ、以、テ、法律、賓、人、ヲ、  
等、以、テ、賓、人、ノ、獨、立、ニ、對、シ、テ、一、家、族、ト、云、ベ、ク、一、家、族、中、何、  
ニ

幣・授受ヲ要シヤ同ク革命軍ノ軍人一定ノ被服ヲ着ルヤ同クシ  
 元來秩序獨立ニシテ然ラシ者ハ自ラ分財産ノ許シ限リ革命  
 政府ヲ助ケルヘカラスカ程ナリ陳ノモノ物ト革命政府ヲ受ケス  
 被服モ各自着用ノ儀トシテ其年ニ至ラハ悉ク雨衣ヲ着ルカ靴  
 フ穿カスカ護脚ノ時若樹下ニ居ルナリ士官ニ雨衣ヲ所持スルナリ  
 或ハ身ヲモフレハ靴ハ必ス自稱セリル可ラスト(公認ノ勿論)之ヲ讀ハ  
 日本人ト以テ多人同人種ヲラカレヨラス云ヒ或ハ武器ノ有ルニシテ時能  
 フカト必ス要ナリハテ之ヲ暇ニ對シ軍分許シテ悉クテ布着ニ違ル  
 途ニテ守衛ノ時見シトモ之ノ別者大尉ニ言テ左様ニ托シテ志  
 ヲス好ニ同ケル見ルモ價値ナル者ニラスト然レバ其ノ一回ニ贈所  
 ヲ實見セヨリシハ此ノ遺憾トス  
 之ヲラカレカスニ至リ同 A. F. Summitt, Ma. Private Secretary  
 to President Aguinaldoトシテ者ト同車ニ彼同ク我等ニ目下ハ

獨立ノ爲メ働クモノナレバ大統領以下兵士ニ至ル迄別ニ俸給ト名ル者ハ勿  
 論可成革命政府ヲ補佐シ仰カス者自ラ之ヲ支弁スルモ若シ獨立  
 ノ院ニ俸給モ差遣支給サル可ク斯ノ如クニシテ若シ同院アルニ度  
 日本ニ行キ且風俗性質ヲ探テント歟ス  
 先ドカビテニ至リ大統領正ミリヲアギナルドニ由得ス一行ノ暫同統  
 キね税ニ就キ同クナス者ト曰ク租税ニシテハ徵收シタルナリ其東軍  
 共ニ余ノ若自ラ身付金ヲ以テ之ニ充テ時ニ或ハ婚姻葬祭ノ税ヲ  
 徵收シタルナリ然レバ其詳細ハ本報長官若クハ馬尼刺市ニ在リ  
 タルリカードニアテサレ孰知スル者ナリ就中大藏長官ハ其職ニ然ラシ  
 ル事ハ詳細ニ明ナリト茲ニ於テ糧食ハ如何ニシテ得ルカフカテ曰ク  
 香港ヨリ得ルト若自ラ身付金ニ由ルニ途ナリト信テ予ハ配ノ方法  
 即チ寄附タル共ニ一定ノ有底ニ送附シ有底之ヲ各洲ニ分配スル者  
 一ツアルヤ同ク其ノ中一定ノ有底ト稱スルモノナリ只寄附者ハ



高座ラレキキキ一七々々天産物ニ限ル支那人奴隷ニ過リ  
反徒間電信ノ架設著キ一反徒ノ首領株ニ大底日本ニ来リシ  
一若クハ来ルヲ希望スル一人民ノ性質温順ナル一等トス

八月廿八日反將アギナルドヨリ 同知セシ馬尼刺在位、Barrister

Legarda Customsヲ訪問ス同人ニ来ト支那人土人、民権ノ由  
ニ一平等アルコトル製造ヲ以テ業トシ多額ノ不始産ヲ所持ト  
云フ任意ノ隣家ヲ以テ製生シ特ニ自家用ノ後電機弁  
ニ尾財機ニ所有シて是レテ至多商家タルヲ知ルニ是レノ其業  
ヲ止ラテ革命政府ノ存ニ尽シ且云計其精ヲ費リ反徒中  
層指ニ共アリト云フ年號四十有格容貌魁偉ナラスト雖也丈  
々高ク頗ル愛嬌ニ富ミ其後二回ヨリニ来遊シ昨年在頃  
再ニ遊フ心算ナリト先ツ革命政府ニ逢合セリ同ヲ於テ曰  
我等ハ勿レ独立ヲ熱心希望スレド周圍ノ事情ニ單獨行進ヲ

許ラズ亞米利加ニ非レハ英英ニ非レハ佛獨到底我等ハ真正ノ  
獨立ニ志ヲ持テ然ルニ日本ハ小國トシ衰弱ヲ以テ充クサレ  
先東洋ニ一語角ヲ顯ハシ風土民情衆人氏強壯ニシテ且ツ賢ク  
誠ニ美事ニ至リ地ニ我等ハ雷ニ呂宋島、ミナラス厚島全  
崎ヲ乘テ革命軍ヲ编制シ聖抄ヲ義捐シ物忌ヲ送ニ  
熱心ニ奔走スレドモ知ラズ日本、維新ノ如キ結果ヲ見ルヲ  
ハキカロク僅ニ、年々ニ波カカク我等モ多ク對テ近年  
ノ内亞界第一等ノ大艦ヲ製造セラルヨリ同ク々日國權維持  
ハ海軍ニ派シテ不可ナリ同ク所ニヨリ加々馬尼刺所ニ集合  
先各國軍艦日英佛獨ノ四ヶ國ニシテ英佛獨ハ右ニ集ル  
ヲ海軍ニ派シテ一隻ヲ派セサル由而後ハ何故ハ海軍ニ派ス亦日本  
ハ海軍ニ派セシマト依テ海軍ハ方ニ忙シク日本ハ澎湖島ヲ根  
據地トシテ迅速ニ津州及旅順松島ナリト是ハ亦其日金ハ

大統領ニ面会ノ即財務上ノ事ハ大藏長官ト貴下ニ非レハ  
ヲ得ズトモ之ヲ聞ク得(キカテ)白リ財政トテ別ニ議ル程ノ事  
ヲキモ是等ノ收支ハ極大ニ詳ニ詳シク之ヲ記シ重クモ之ヲ令  
目トシ、官庫ハ右ノ事財庫ヲ成立スル共ニシテ租税一切徴  
收シタル事ナリ(婚姻葬祭、税ヲ徴收シタル事ナルカモ知ラサレ  
此等ノ事庫ニ納メタル費ナシ(婚姻葬祭等、税亦不取)同  
儀ヲ免(免ナリ)先ツ此等ノ事、即ノ事、日ニ至ル迄之ヲ通  
知シタル事(附金)凡百五十万弗ニシテ以外通云ナリ  
直ニモ(附金)官庫ニシテ内井サレタル共ニ歳計ナルカ知ラサレ  
日ニ至ル共ニ都府隔ル毎ニ巨多ノ貨幣物品ヲ戦利品トシテ獲  
取シ現ニ Santa Cruz ニシテ五万六千井 Motoy ニシテ八千井  
Dagupan ニシテ八万二千井ヲ得最良ニ沙ニ不自由ヲ感セサ  
レモ是等ノ事ニテ香港銀行ニ預ケタル四十萬井ハ一年定期

預ケタルカ故ニ本年十二月ニ至ラサレハ使用スルヲ得ズ他者付金  
トテモ此ノ如クナラサリシカ故ニ財白ノ困難一才ナラス(種々苦心、  
未今日ノ有様ニ至至ナリ然レモ是ニ一云ス(キハ)例ハハサシタ  
ノ事ハ手井トシモ他者ノ事計ニ至ル頃ハ存程減少シテ實  
際庫ニ入ル共ニ四万弗ニ至キ所ニ戦利品通知書ノ金額  
ト庫庫ニ入ル共ニ八千井差置ヲ付スト亦同テ曰リ(終令)減少  
一都府毎ニ平均ニ三萬弗宛納入スルトスレハ其示ノ如ク全島ニ十  
五倍ノ都府ニシテ巨額トナル(其使用ノ途ハ如何)答ニ  
全島ノ兵數十四萬ナリ内四萬人ハ真正ナル革命軍トシテ軍  
備品ヲ武器ヲ交付シ亦日本ノ外ニ革命代トシテ一日五割ヲ  
償シ若シ一周間(或ハ)五割品ノ事者ヲ支給シ居レリ是亦其  
中途ノ大ナル事ナリ(武器ノ購入ハ何カ秘密ニテ行ハレシ  
話スルヲナリ)然レモ他ニ收入ノ大ナル者アリ(即チ寺院ノ没收

之トス身現ノ財産總計尤モ巨額ニシテ其底短日月ニ調  
査スル破ハ六單ニ動産才ノ貨幣ノミミテモ其日為ホ報告ヲ  
得ス斯ク話シ他ルヤ突如トシテ同テ甲軍兵八島ノ依拠或  
何ト見若クハ更ニ向リ同ク日中ハ武勇ニ富ミ居レド財政ハ  
餘り也ナラスト果シテ信ナレハ初リ多額ノ北ヲ多ク燻入セバ其後  
ハ如何ト依テ貸貸等ヲラサレド財政宜キキリ得ハ不可ナルナレド  
是ハ本島真ニ独ニ之ヲ維持スルノ税源ナカルハカラス其金之  
者ヲ同フ者ト曰リ砂糖、酒精、マシラ麻、煙草、阿片トス  
（阿片ハ支那人ノ限ラス本島人モ之ヲ嗜ム者夥多アルト云フ）  
而シテ是等ヲ我何ノ收入アルハ未タ暇ニ云ニ能クスホ業  
命ニ對シテ計量ニ財政等ノ案書アリ明日之ヲ送呈セシト  
依テ更ニ軍兵政府カ銀引ニ對シテ豫定計量ヲ同フ者ト  
曰リ其日為ホ我時位億、際ナレハ確タル計量モ立テ居ラス

六當馬庄刺市ニ資金務括萬弗ヲ有レ比伴賓人銀行  
アリ之ヲ利用セシト然ルニ幸ニ日本ノ人ハ信テ、事ニ賢ク善  
通教育モ國內一般ニ行ハレタル由ナレハ若シ本島ニシテ獨ニ  
榮ヲ得ハ萬事ヲ本ノ指導ニ與ラサル可カラス幸ニ是ヲ報  
行ヲ賜ケルモノアリヤト云テ曰リ貴島ニシテ獨ニ之ハ貴島人  
内何ソ其人ナキヤ更ニ本邦人モ又喜テ協力スレト更ニ話  
頭ヲ封シ先日バコルノ本望ニ至リシ比伴賓軍人ニハ一定ノ  
限制ナク亦兵卒ニ而衣靴モナレト同ク各技兵亦豫定計  
量アラハ同ク得ヘキカト答テ曰リ服制ハ各々西班牙兵ノ如  
シ地ノ採ニ一定ニ而衣靴モ進テ交付シ若ナリ彼ノ信地ニ  
班手ノ Balconama 地者ニ陸ニ運賃モ低廉ナリ而シ日本  
ニ至リテ始キ地質ヲラシテ取ル可トストテ時五時未  
のチ終ニ泰レ



曩者アギナルド革命政府ノ運命ニ付只死スルノ事ト見  
レハリカルドハ到底至ラズト独立ニ執リト云モ亦彼ノ海軍  
ニ付テハ少シク計量ナシト答フルニ之ニ到底海軍ニ非ラハ  
國權ヲ維持スル能ハスト云フ兩者ヲ比較スレバ如何ニリカルド  
ガ熱心ナル如キヲ以テ即チタルカヲ知ルニ足ル  
リカード氏送付ノ比律賓革命政府ノ制定法草案ヲ  
添付ス

曩者イギリスノ革命政府ノ運命ニ付只死スルノ事ト爲レ  
今ハリカルドハ到底至ルニ至リテ立テ死スルニ至リテ亦彼ノ海軍  
ニ付テハ少シク計量ナシト答フルニ之ニ到底海軍ニ非サレハ  
國權ヲ維持スル能ハスト云フ兩者ヲ比較スレハ如何ニリカルド  
ガ熱心ナル如キヲ以テ即チタルカチ知ルニ足ル

リカド氏送付ノ七津廣革命ノ政府ノ運命ニ付テ

海軍公刊



明治三十一年七月

日	天候		風		晴雨計		寒暖計		記	事
	午前	午後	方向	力	最高	最低	最高	最低		
1	OC	OCR	☉	1-0	30.00	27.75	84	80		
2	BC	OCPR	F-E	0-1	27.77	27.73	84	77		
3	"	"	NC-NW	1	30-3	27.74	85	77		
4	"	BC	N	1-2	30.05	27.77	83	80		
5	"	"	C-S	1	30.03	27.96	86	80		
6	"	"	SSE-SE	0-1	30.00	27.93	82	80		
7	OC	"	SE-E	1	30.04	27.74	82	77		
8	"	BC	☉	0	30.05	27.77	83	77		
9	BC	"	N-NW	1-0	30.05	27.77	83	81		
10	BC	"	E-N	0-1	30.05	27.77	83	81		
11	"	BC	N-NE	1	30.01	27.74	86	80		
12	BC	BC	N-W	0-1	30.00	27.75	85	80		
13	"	"	WSW-SW	2-1	30.01	27.76	84	82		
14	"	"	☉	0	30.04	27.75	84	81		
15	"	BC	N-C	0-1	30.04	27.75	84	81		
16	"	BC	SW-☉	1-0	30.13	27.77	85	77		
17	"	BC	N-NE-S	1	27.77	27.73	84	77		
18	"	BC	L.T.R.	0-1	27.77	27.73	84	77		
19	"	BC	☉	0	27.77	27.73	84	77		
20	"	BC	N-NC	1-0	27.77	27.73	84	77		
21	"	BC	NC-SSW	1	27.77	27.73	84	77		
22	"	BC	NC-CEL	1	27.77	27.73	84	77		
23	OCR	OR	☉	0	27.77	27.73	84	77		
24	"	OCR	☉	0	27.77	27.73	84	77		
25	"	"	☉	0	27.77	27.73	84	77		
26	BCP	OCAP	☉	0	27.77	27.73	84	77		
27	"	OC	☉	0	27.77	27.73	84	77		
28	BC	BCP	☉	0	27.77	27.73	84	77		
29	"	BC	☉	0	27.77	27.73	84	77		
30	"	"	☉	0	27.77	27.73	84	77		
31	"	"	☉	0	27.77	27.73	84	77		

以上秋津川

明治三十一年六月

日	天候		風		晴雨計		寒暖計		記	事
	午前	午後	方向	力	最高	最低	最高	最低		
1	OCR	OC	☉	0	27.85	27.73	82	80		
2	BC	BC	☉	0	27.83	27.77	86	81		
3	"	"	☉	0	27.84	27.76	84	83		
4	"	"	☉	0	27.81	27.75	83	82		
5	"	OCPTL	☉	0	27.84	27.79	87	82		
6	"	BC	☉	0	27.81	27.82	88	80		
7	"	"	☉	0	27.76	27.82	88	82		
8	"	"	☉	0	27.77	27.87	88	84		
9	BC	"	☉	0	27.74	27.85	89	83		
10	"	BC	☉	0	27.76	27.73	87	82		
11	"	"	☉	0	27.78	27.70	86	84		以上流達
12	"	"	☉	0	27.70	27.84	89	82		
13	"	BC	☉	0	27.77	27.81	86	81		
14	BC	"	☉	0	27.84	27.73	91	82		
15	OCR	OCR	☉	0	27.77	27.78	84	81		
16	"	"	☉	0	27.77	27.78	84	82		
17	BC	BC	☉	0	27.78	27.85	86	81		
18	"	BC	☉	0	27.71	27.87	87	83		
19	BC	"	☉	0	27.72	27.86	88	84		
20	"	"	☉	0	27.73	27.84	88	83		
21	"	"	☉	0	27.75	27.81	87	83		
22	OCR	BC	☉	0	27.72	27.83	85	81		
23	BCP	"	☉	0	27.70	27.77	87	83		
24	BC	"	☉	0	27.71	27.77	87	83		
25	"	OCR	☉	0	27.85	27.78	85	83		
26	"	BCP	☉	0	27.86	27.76	87	80		以上秋津
27	OCR	OCR	☉	0	27.70	27.84	83	81		
28	"	OCR	☉	0	27.70	27.83	85	81		
29	BC	"	☉	0	27.79	27.90	86	81		
30	"	BC	☉	0	30.01	27.74	85	80		
31	"	"	☉	0	27.83	27.69	83	81		